

家畜改良増殖法施行規則

発令 : 昭和25年8月19日農林省令第96号

最終改正 : 令和2年9月28日号外農林水産省令第64号

改正内容 : 令和2年9月28日号外農林水産省令第64号[令和2年10月1日]

家畜改良増殖法施行規則

〔昭和二十五年八月十九日農林省令第九十六号〕

家畜改良増殖法（昭和二十五年法律第二百九号）を実施するため、及び同法に基き、家畜改良増殖法施行規則を次のように定める。

家畜改良増殖法施行規則

目次

第一章 種畜等（第一条 第十四条）

第二章 家畜人工授精及び家畜受精卵移植

第一節 家畜人工授精及び家畜受精卵移植の制限等（第十五条 第二十条）

第二節 家畜人工授精師（第二十一条 第三十一条）

第三節 家畜人工授精所（第三十二条 第四十条）

第四節 特定家畜人工授精用精液等の特例（第四十一条 第四十四条）

第二章の二 家畜登録事業（第四十五条 第四十八条）

第三章 雑則（第四十九条 第五十二条）

附則

第一章 種畜等

（検査の方法）

第一条 独立行政法人家畜改良センター（以下「センター」という。）は、家畜改良増殖法（以下「法」という。）第四条第一項本文の検査（以下「定期検査」という。）及び同項第一号の検査（以下「センターの臨時検査」という。）を行うときは、次の各号のいずれかに該当する職員にこれらの検査を担当させなければならない。

一 獣医師又は家畜人工授精師

二 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）に基づく大学又は高等専門学校において、獣医学又は畜産学の課程を修めて卒業した者（当該課程を修めて同法に基づく専門職大学の前期課程を修了した者を含む。）

三 学校教育法に基づく高等学校又はこれと同等以上の学校を卒業した場合にあつては、家畜の改良及び増殖並びに飼養管理の改善の業務に三年以上従事している者

四 農林水産大臣が前三号に掲げる者と同等以上の知識経験を有すると認めたる者

（検査の期日及び場所）

第二条 センターは、定期検査及びセンターの臨時検査の期日、場所その他必要な事項を検査期日の二十日前までに公表しなければならない。

2 都道府県知事は、法第四条第一項第二号の検査（以下「地方の臨時検査」という。）の期日、場所その他必要な事項を検査期日の二十日前までに公表しなければならない。

（種付け等の制限の特例）

第三条 法第四条第一項第三号の農林水産省令で定める場合は、次に掲げる場合とする。

一 法第四条第一項本文の家畜の雄の飼養者が行う行為であつて次に掲げるものの用に供する場合

イ 自己の飼養する雌についてのみ行う種付け

ロ 自己の飼養する雌についてのみ行う行為であつて次に掲げるものの用に供する家畜人工授精用精液（法第四条第一項に規定する家畜人工授精用精液をいう。以下同じ。）の採取

（1）家畜人工授精（法第三条第二項に規定する家畜人工授精をいう。以下同じ。）

（2）家畜体外受精卵移植（法第三条第五項に規定する家畜体外受精卵移植をいう。以下同じ。）

二 法第四条第一項本文の家畜の雄であつて、専ら一の都道府県の区域内において飼養され、当該都道府県においてその改良増殖が計画的に行われると認められる家畜の品種として農林水産大臣が指定するものに属するものであり、かつ、当該都道府県の区域内の家畜人工授精所その

他の農林水産大臣が指定する場所において飼養されるものを当該都道府県の区域内において種付け又は家畜人工授精用精液の採取の用に供する場合

(検査の申請)

第四条 法第四条第一項の検査(以下「種畜検査」という。)を受けようとする者は、別記様式第一号による申請書を、定期検査及びセンターの臨時検査にあつてはセンターに、地方の臨時検査にあつては都道府県知事に提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由があるときは、検査の際、第一条に規定するセンターの職員又は地方の臨時検査を担当する者(以下「検査担当者」という。)にこれを提出することができる。

(必要書類の呈示)

第五条 種畜検査を受けようとする者は、検査の際、当該家畜の血統、能力及び経歴を証明する書類並びに法第九条第二項の規定による種付台帳があるときはこれを検査担当者に呈示しなければならない。

(検査に係る疾患の種類)

第六条 法第四条第二項の農林水産省令で定める疾患は、次に掲げるものとする。

一 伝染性疾患

イ 家畜伝染病予防法(昭和二十六年法律第百六十六号)第二条第一項の表の上欄に掲げる伝染性疾患及びこれらの伝染性疾患の疑症

ロ 牛については、牛伝染性鼻気管炎、ブルータング、ランピースキン病、牛カンピロバクター症、トリコモナス症、トリパノソーマ症及びレプトスピラ症(レプトスピラ・ポモナによるものに限る。)

ハ 馬については、トリパノソーマ症、仮性皮膚^そ疽、馬パラチフス、馬伝染性子宮炎及びこうしん

ニ 豚については、オーエスキー病、豚繁殖・呼吸障害症候群及び豚テシオウイルス性脳脊髄炎

二 遺伝性疾患

イ 牛について

(1) 肉用の品種であつて農林水産大臣が指定するものについては、遺伝性先天性ポルフィリン症、遺伝性特発性てんかん、遺伝性けいれん性不全麻ひ、遺伝性先天性軟骨發育不全症、遺伝性長期在胎、遺伝性の奇型、クローディン十六欠損症、第十三因子欠損症、バンド三欠損症、IARS異常症及びモリブデン補酵素欠損症並びにこれらを後代に発現させる遺伝性疾患

(2) 乳用の品種であつて農林水産大臣が指定するものについては、遺伝性先天性ポルフィリン症、遺伝性特発性てんかん、遺伝性けいれん性不全麻ひ、遺伝性先天性軟骨發育不全症、遺伝性長期在胎、遺伝性の奇型、牛白血球粘着性欠如症、牛複合脊椎形成不全症及び牛短脊椎症並びにこれらを後代に発現させる遺伝性疾患

(3) (1)及び(2)の農林水産大臣が指定する品種以外のものについては、遺伝性先天性ポルフィリン症、遺伝性特発性てんかん、遺伝性けいれん性不全麻ひ、遺伝性先天性軟骨發育不全症、遺伝性長期在胎及び遺伝性の奇型並びにこれらを後代に発現させる遺伝性疾患

ロ 馬については、遺伝性虹彩欠損症及び遺伝性の奇型並びにこれらを後代に発現させる遺伝性疾患

ハ 豚については、遺伝性先天性振戦、遺伝性クル病、遺伝性増殖性皮膚炎及び遺伝性の奇型並びにこれらを後代に発現させる遺伝性疾患

三 繁殖機能の障害

精巣炎、精巣機能減退、精巣い縮、潜在性精巣、陰のう炎、ぼつ起不全症、陰茎脱、陰茎湾曲症、亀頭包皮^そ炎、包茎、精のうせん炎、前立せん炎、精巣及び副生殖器の發育不全及びしゅよう並びに陰茎及び包皮の裂傷

(種畜の等級)

第七条 法第四条第三項の等級は、特級、一級、二級及び級外の四階級に区分する。

2 前項の等級の判定基準は、農林水産大臣が告示で定める。

(種畜証明書の交付等)

第八条 農林水産大臣又は都道府県知事は、検査に合格した家畜について別記様式第二号による種畜証明書をその飼養者に交付するものとする。

2 法第四条第四項の規定により種畜証明書の交付の手續に関する事務がセンターに委託されている場合にあつては、センターは、検査に合格した家畜について別記様式第二号による種畜証明書をその飼養者に交付するものとする。

(委託契約書の記載事項)

第八条の二 家畜改良増殖法施行令(昭和二十五年政令第二百六十九号。以下「令」という。)第四条第一号八の農林水産省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

- 一 委託契約の金額
- 二 委託契約代金の支払の時期及び方法
- 三 センターの農林水産大臣への報告に関する事項

(委託契約に係る公示)

第八条の三 令第四条第二号の規定による公示は、次に掲げる事項を明らかにすることにより行うものとする。

- 一 委託に係る事務の内容
- 二 委託に係る事務を処理する場所

(種畜証明書の記載事項の変更)

第九条 令第五条の農林水産省令で定める変更は、次に掲げるものとする。

- 一 種畜の名前の変更
- 二 種畜の飼養者の住所及び氏名又は名称の変更

(種畜証明書の書換交付及び再交付の手續)

第十条 令第五条の規定による種畜証明書の書換交付の申請は、別記様式第三号による申請書に種畜証明書を添えてしなければならない。

2 令第六条第一項の規定による種畜証明書の再交付の申請は、別記様式第三号による申請書を提出してしなければならない。この場合において、種畜証明書を汚し、又は損じたためその再交付を申請しようとする者は、申請書に種畜証明書を添えて提出しなければならない。

3 前二項の規定による申請をする者のうち農林水産大臣に対して申請をするものは、その手数料を申請書に収入印紙を貼り付けて納付しなければならない。

第十一条 削除〔平成一二年一月農水令五号〕

(種畜の公示)

第十二条 法第八条第一項及び第二項の農林水産省令で定める場合は、次に掲げる場合とする。

- 一 種畜証明書を書換交付したとき。
- 二 令第七条第一項第三号の場合において、種畜証明書の返納があつたとき。

(種畜証明書の提示の相手方)

第十三条 法第九条第一項の農林水産省令で定める者は、次に掲げる者とする。

- 一 獣医師及び家畜人工授精師
- 二 家畜伝染病予防法の家畜防疫官及び家畜防疫員
- 三 農業共済組合及び農業共済組合連合会の関係技術員

(診断に係る疾患の種類)

第十三条の二 法第九条の二第一項の農林水産省令で定める伝染性疾患は、次に掲げるものとする。ただし、雌の家畜のとたいから家畜卵巣(法第三条の三第二項第五号に規定する家畜卵巣をいう。以下同じ。)を採取する場合にあつては、当該雌の家畜又はそのとたいについてと畜場法(昭和二十八年法律第百十四号)第十四条第一項から第三項までの都道府県知事の行う検査を行うときは、当該検査において検査される疾患を除くことができる。

- 一 第六条第一号イに掲げる伝染性疾患(ブルセラ症を除く。)
- 二 牛伝染性鼻気管炎、ブルータンク、ランピースキン病、トリパノソーマ症及びレプトスピラ症(レプトスピラ・ボモナによるものに限る。)

(獣医師の診断)

第十三条の三 法第九条の二第一項の獣医師による診断は、雌の家畜を家畜体内受精卵(法第三条の三第二項第四号に規定する家畜体内受精卵をいう。以下同じ。)の採取の用に供する日又は雌の家畜若しくはそのとたいを家畜卵巣の採取の用に供する日前三十日以内に受けたものでなければならない。

(家畜受精卵の採取の制限の特例)

第十三条の四 法第九条の二第一項ただし書の農林水産省令で定める場合は、同項の家畜の雌の飼養者が、当該雌の家畜を、自己の飼養する雌の家畜のみに移植する家畜体内受精卵の採取の用に供する場合とする。

2 法第九条の二第二項ただし書の農林水産省令で定める場合は、同項の家畜の雌の飼養者又は同項の家畜卵巣を採取する者が、当該家畜の雌又はそのとたいを、自己の飼養する雌の家畜のみに移植する家畜体外受精卵(法第十一条の二第四項に規定する家畜体外受精卵をいう。以下同じ。)の生産の用に供する家畜卵巣の採取の用に供する場合とする。

(種付台帳等の様式)

第十四条 法第九条第二項の種付台帳、同条第四項の種付証明書及び同項の精液採取に関する証明書の様式は、それぞれ別記様式第四号、様式第五号及び様式第六号によるものとする。

第二章 家畜人工授精及び家畜受精卵移植

第一節 家畜人工授精及び家畜受精卵移植の制限等

(家畜人工授精の制限の特例)

第十五条 法第十一条ただし書の農林水産省令で定める場合は、自己の飼養する雌の家畜に注入するためにする他人の飼養する雄の家畜から採取された家畜人工授精用精液の処理又は注入をする場合とする。

(家畜受精卵移植の制限の特例)

第十五条の二 法第十一条の二第一項ただし書の農林水産省令で定める場合は、自己の飼養する雌の家畜に移植するために他人の飼養する雌の家畜から採取された家畜体内受精卵の処理をする場合とする。

2 法第十一条の二第三項ただし書の農林水産省令で定める場合は、次に掲げる場合とする。

一 自己の飼養する雌の家畜に移植する家畜体外受精卵の生産の用に供するために雌の家畜のとたいから家畜卵巣を採取する場合

二 農林水産大臣の定めるところにより家畜卵巣の採取を的確に、かつ、衛生的に実施することができる者と認められる者が、獣医師又は家畜人工授精師の具体的な指示の下に雌の家畜のとたいから家畜卵巣を採取する場合

3 法第十一条の二第四項ただし書の農林水産省令で定める場合は、自己の飼養する雌の家畜に移植する家畜体外受精卵の生産の用に供するために家畜未受精卵(同項に規定する家畜未受精卵をいう。以下同じ。)を採取し、若しくは処理し、家畜体外授精(法第四条第一項に規定する家畜体外授精をいう。以下同じ。)を行い、又は家畜体外受精卵を処理する場合とする。

(精液の検査方法)

第十六条 法第十三条第一項の検査は、第一号に掲げる事項については肉眼検査、第二号に掲げる事項については顕微鏡検査の方法による。

一 精液の量及びその色、臭気、水素イオン濃度等の性状

二 精子の数、活力、生存率及びき型率

(家畜体内受精卵の検査方法)

第十六条の二 法第十三条第二項の検査は、次に掲げる方法による。

一 家畜体内受精卵の検査は、当該家畜体内受精卵を適切に洗浄した後に行うこと。

二 イに掲げる事項については肉眼検査、ロに掲げる事項については顕微鏡検査の方法によること。

イ 浮遊液の色等の性状

ロ 家畜体内受精卵の形態及び浮遊液中のじよ状物又はきよう雑物の有無

(家畜未受精卵の採取方法等)

第十六条の三 法第十三条第三項の家畜未受精卵の採取及び処理、家畜体外授精並びに家畜体外受精卵の検査は、次の方法による。

一 家畜体外授精は、当該家畜未受精卵を適切に洗浄した後に行うこと。

二 イに掲げる事項については肉眼検査、ロに掲げる事項については顕微鏡検査の方法によること。

イ 浮遊液の色等の性状

ロ 家畜体外受精卵の形態及び浮遊液中のじよ状物又はきよう雑物の有無

(家畜人工授精用精液、家畜体内受精卵及び家畜体外受精卵の処置)

- 第十六条の四 法第十三条第四項の農林水産省令で定める方法は、次のとおりとする。
- 一 保存及び輸送の際家畜人工授精用精液、家畜体内受精卵又は家畜体外受精卵に対して悪感作を与えないような容器を用いること。
 - 二 家畜人工授精用精液、家畜体内受精卵又は家畜体外受精卵に対して悪感作を与えないように衛生的に操作すること。
(精液の異常等)
- 第十七条 法第十三条第七項の農林水産省令で定める異常は、次に掲げるものとする。
- 一 精液中に血液、尿又は膿を混ざること。
 - 二 精液中に精子を欠除すること。
 - 三 精液中の精子の活力が乏しく、生存率が低く、又は奇型率が高いために受胎に支障があると認められること。
(輸入精液に係る証明書の発行者)
- 第十七条の二 法第十四条第一項第一号中イからニまで以外の部分の農林水産省令で定める者は、外国の法令により設立された営利を目的としない法人で、その経理的基礎、技術的能力等からみて、同号の証明書の発行を的確に、かつ、公正に実施することができるものとして農林水産大臣が指定するものとする。
(遺伝性疾患及び繁殖機能の障害の種類)
- 第十七条の三 法第十四条第一項第一号イの農林水産省令で定める遺伝性疾患及び繁殖機能の障害は、それぞれ第六条第二号に掲げる遺伝性疾患及び同条第三号に掲げる繁殖機能の障害とする。
(輸入精液の採取者)
- 第十七条の四 法第十四条第一項第一号ロの農林水産省令で定める者は、次に掲げる者とする。
- 一 獣医師又は家畜人工授精師
 - 二 家畜人工授精に関し家畜人工授精師と同等以上の知識及び技能を有し、家畜人工授精を的確に、かつ、衛生的に実施することができるものと認められる者
(輸入精液に係る検査方法等)
- 第十七条の五 法第十四条第一項第一号口の農林水産省令で定める方法は、検査については第十六条の方法、容器への収容については第十六条の四の方法とする。
(輸入精液に係る証明書の記載事項)
- 第十七条の六 法第十四条第一項第一号ニの農林水産省令で定める事項は、次のとおりとする。
- 一 当該家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の家畜の名前
 - 二 前号の雄の家畜の種類及び品種
 - 三 当該家畜人工授精用精液の採取年月日
 - 四 前号の採取年月日における第一号の雄の家畜の飼養者の氏名又は名称及び住所
 - 五 当該家畜人工授精用精液の採取及び処理をした者の氏名及び住所
(輸入受精卵に係る証明書の発行者)
- 第十七条の七 法第十四条第二項第一号中イからへまで以外の部分の農林水産省令で定める者は、外国の法令により設立された営利を目的としない法人で、その経理的基礎、技術的能力等からみて、同号の証明書の発行を的確に、かつ、公正に実施することができるものとして農林水産大臣が指定するものとする。
- 第十七条の八 削除〔平成二八年四月農水令三四号〕
(輸入受精卵の採取者)
- 第十七条の九 法第十四条第二項第一号ハの農林水産省令で定める者は、獣医師とする。
(輸入受精卵に係る検査方法等)
- 第十七条の十 法第十四条第二項第一号ニの農林水産省令で定める方法は、検査については第十六条の二の方法、容器への収容については第十六条の四の方法とする。
- 第十七条の十一 法第十四条第二項第一号ロの農林水産省令で定める者は、次に掲げる者とする。
ただし、雌の家畜から家畜卵巣を採取する場合にあつては、獣医師とする。
- 一 獣医師又は家畜人工授精師
 - 二 家畜体外受精卵移植に関し家畜人工授精師と同等以上の知識及び技能を有し、家畜体外受精卵移植を的確に、かつ、衛生的に実施することができるものと認められる者

第十七条の十二 法第十四条第二項第一号二の農林水産省令で定める方法は、家畜未受精卵の採取及び処理、家畜体外授精及び検査については、第十六条の三の方法、容器への収容については第十六条の四の方法とする。

(輸入受精卵に係る証明書の記載事項)

第十七条の十三 法第十四条第二項第一号への農林水産省令で定める事項は、家畜体内受精卵にあつては次のとおりとする。

- 一 当該家畜体内受精卵を採取するために種付けの用に供した雄の家畜(家畜人工授精用精液を注入した場合にあつては、当該家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の家畜。第四十二条第一項第二号ロにおいて同じ。)の名前
- 二 前号の雄の家畜の品種
- 三 当該家畜体内受精卵の採取の用に供した雌の家畜の名前
- 四 前号の雌の家畜の品種
- 五 当該家畜体内受精卵を採取するためにした種付け又は家畜人工授精用精液の注入の年月日
- 六 当該家畜体内受精卵の採取年月日
- 七 前号の採取年月日における第三号の雌の家畜の飼養者の氏名又は名称及び住所
- 八 当該家畜体内受精卵の採取及び処理をした者の氏名及び住所

2 法第十四条第二項第一号への農林水産省令で定める事項は、家畜体外受精卵にあつては次のとおりとする。

- 一 当該家畜体外受精卵に係る家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の家畜の名前
- 二 前号の雄の家畜の品種
- 三 当該家畜体外受精卵に係る家畜卵巣の採取の用に供した雌の家畜(そのとたいから家畜卵巣を採取した雌の家畜を含む。第七号及び第四十二条第一項第三号ロにおいて同じ。)の名前
- 四 前号の雌の家畜の品種
- 五 当該家畜体外受精卵を生産するために行つた家畜体外授精の年月日
- 六 当該家畜体外受精卵の検査年月日
- 七 当該家畜体外受精卵に係る家畜卵巣を採取した日における第三号の雌の家畜の飼養者の氏名又は名称及び住所
- 八 当該家畜体外受精卵に係る家畜卵巣の採取、家畜未受精卵の採取及び処理、家畜体外授精並びに家畜体外受精卵の処理をした者の氏名及び住所
(家畜人工授精用精液又は家畜受精卵の譲渡等の基準)

第十八条 法第十四条第三項の農林水産省令で定める基準は、家畜人工授精所、家畜保健衛生所その他家畜人工授精又は家畜受精卵移植を行うためセンター又は都道府県が開設する施設(以下「家畜人工授精所等」という。)において衛生的に保存されている家畜人工授精用精液又は家畜受精卵(法第十一条の二第五項に規定する家畜受精卵をいう。以下同じ。)であつて、次に掲げるものとする。

- 一 次に掲げる家畜人工授精用精液でないこと。
 - イ 細菌が多数発育しているもの
 - ロ じよ状物又はきよう雑物があるもの
 - ハ 水素イオン濃度が著しく酸性又はアルカリ性であつて受胎に支障があると認められるもの
 - ニ 第十七条各号に掲げる異常を有するもの
- 二 次に掲げる家畜受精卵でないこと。
 - イ 卵細胞が変性し、若しくは消失し、又は形態が著しく変形しているために受胎に支障があると認められるもの
 - ロ 家畜体内受精卵を採取するためにした種付け若しくは家畜人工授精用精液の注入又は家畜体外受精卵を生産するために行つた家畜体外授精の年月日から推定される発育段階と著しく異なる発育段階にあるために受胎に支障があると認められるもの
 - ハ 浮遊液に細菌が多数発育し、又はじよ状物若しくはきよう雑物が多数あるもの

第十九条 削除〔昭和五八年一月農水令四八号〕

(家畜人工授精用精液証明書等の様式)

第二十条 法第十三条第四項の家畜人工授精用精液証明書、同項の家畜体内受精卵証明書、同項の家畜体外受精卵証明書、同条第八項の精液採取に関する証明書、同項の体内受精卵採取に関する証明書、同項の体外受精卵生産に関する証明書及び法第十五条の家畜人工授精簿は、それぞれ別

記様式第七号、様式第八号、様式第九号、様式第十号、様式第十一号、様式第十二号及び様式第十三号によるものとする。

第二節 家畜人工授精師

(講習会開催者の指定の申請)

第二十一条 法第十六条第二項の規定による指定を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書を農林水産大臣に提出しなければならない。

- 一 名称及び住所並びに代表者の氏名
- 二 講習会に係る家畜の種類並びに家畜人工授精に関する講習会、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会又は家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の別
- 三 講習会の開催場所
- 四 講習会において課すべき科目及びその時間並びに担当講師の氏名及び略歴
- 五 講習会の用に供する施設、機械器具及び家畜の概要

(講習会開催者の指定の基準)

第二十二条 家畜人工授精に関する講習会に係る法第十六条第二項の規定による指定の基準は、次のとおりとする。

- 一 次のいずれかに該当する者であること。
 - イ 学校教育法に基づく大学であつて、獣医学又は畜産学に関する学部又は学科を置くもの
 - ロ 学校教育法に基づく専修学校であつて、畜産学に関する専門課程を置くもの
 - ハ 特別の法律により特別の設立行為をもつて設立すべきものとされる法人又は一般社団法人若しくは一般財団法人であつて、家畜の改良増殖の促進を目的とするもの

二 前条の申請に係る家畜の種類について第二十三条第一項各号に掲げる科目を教授するのに必要な知識及び技能を有する適当な数の講師を有し、かつ、その講師には、獣医師又は家畜人工授精師を含むこと。

三 前条の申請に係る家畜の種類について第二十三条第一項各号に掲げる科目を教授するのに必要な施設、機械器具及び家畜を有すること。

2 家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会に係る法第十六条第二項の規定による指定の基準は、次のとおりとする。

- 一 前項第一号に掲げる者であること。
- 二 前条の申請に係る家畜の種類について第二十三条第二項各号に掲げる科目を教授するのに必要な知識及び技能を有する適当な数の講師を有し、かつ、その講師には、獣医師を含むこと。
- 三 前条の申請に係る家畜の種類について第二十三条第二項各号に掲げる科目を教授するのに必要な施設、機械器具及び家畜を有すること。

3 家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会に係る法第十六条第二項の規定による指定の基準は、次のとおりとする。

- 一 第一項第一号に掲げる者であること。
- 二 前条の申請に係る家畜の種類について第二十三条第三項各号に掲げる科目を教授するのに必要な知識及び技能を有する適当な数の講師を有し、かつ、その講師には、獣医師を含むこと。
- 三 前条の申請に係る家畜の種類について第二十三条第三項各号に掲げる科目を教授するのに必要な施設、機械器具及び家畜を有すること。

(報告の徴収及び指示)

第二十二条の二 農林水産大臣は、講習会の適正な運営を図るため必要があると認めるときは、法第十六条第二項の規定による指定を受けた者(以下「指定講習会開催者」という。)に対して講習会に関し必要な事項の報告を求めることができる。

2 農林水産大臣は、指定講習会開催者の講習の内容、講習会の用に供する施設、機械器具又は家畜その他講習会の運営が適当でないとき、その指定講習会開催者に対して必要な指示をすることができる。

(指定の取消し)

第二十二条の三 農林水産大臣は、指定講習会開催者から申請があつたときは、その指定を取り消さなければならない。

2 農林水産大臣は、指定講習会開催者が第二十二条第一項若しくは第二項に規定する指定の基準に適合しなくなつたとき又は前条第二項の規定による指示に従わないときは、その指定を取り消すことができる。

(講習課目等)

第二十三条 家畜人工授精に関する講習会において課すべき科目及びその時間は、少なくとも次のとおりでなければならない。

一 学科

科	目	時 間
一般 科目	畜産概論	四時間
	家畜の栄養	三時間
	家畜の飼養管理	三時間
	家畜の育種	七時間
	関係法規	五時間
専門 科目	生殖器解剖	五時間
	繁殖生理(神経・内分泌及び雌繁殖生理)	十三時間
	精子生理(雄繁殖生理)	七時間
	種付けの理論(妊娠と分娩)	四時間
	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存	十七時間

二 実習

科	目	時 間
	家畜の飼養管理	四時間
	家畜の審査	七時間
	生殖器解剖	四時間
	発情鑑定	六時間
	精液精子検査法	八時間
	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存	四十五時間

2 家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会において課すべき科目及びその時間は、少なくとも次のとおりでなければならない。

一 学科

科	目	時 間
一般 科目	畜産概論	四時間
	家畜の栄養	三時間
	家畜の飼養管理	三時間

	家畜の育種	七時間
	関係法規	五時間
専門 科目	生殖器解剖	五時間
	繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖生理）	十三時間
	精子生理（雄繁殖生理）	七時間
	種付けの理論（妊娠と分娩）	四時間
	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存	十七時間
	体内受精卵移植概論	八時間
	受精卵の生理及び形態	十六時間
	体内受精卵の処理及び保存	十六時間
	受精卵の移植	八時間

二 実習

科	目	時 間
	家畜の飼養管理	四時間
	家畜の審査	七時間
	生殖器解剖	四時間
	発情鑑定	六時間
	精液精子検査法	八時間
	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存	四十五時間
	体内受精卵の処理及び保存	五十時間
	受精卵の移植	二十六時間

3 家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会において課すべき科目及びその時間は、少なくとも次のとおりでなければならない。

一 学科

科	目	時 間
一般 科目	畜産概論	四時間
	家畜の栄養	三時間
	家畜の飼養管理	三時間
	家畜の育種	七時間
	関係法規	五時間

専門 科目	生殖器解剖	五時間
	繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖生理）	十三時間
	精子生理（雄繁殖生理）	七時間
	種付けの理論（妊娠と分娩）	四時間
	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存	十七時間
	体内受精卵移植概論	八時間
	受精卵の生理及び形態	十六時間
	体内受精卵の処理及び保存	十六時間
	体外受精卵移植概論	三時間
	体外受精卵の生産	四時間
	受精卵の移植	八時間

二 実習

科	目	時 間
	家畜の飼養管理	四時間
	家畜の審査	七時間
	生殖器解剖	四時間
	発情鑑定	六時間
	精液精子検査法	八時間
	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存	四十五時間
	体内受精卵の処理及び保存	五十時間
	体外受精卵の生産	二十一時間
	受精卵の移植	二十六時間

4 家畜人工授精に関する講習会における講習は、第一項各号に掲げる科目のうち畜産概論、家畜の栄養、家畜の飼養管理、家畜の育種、生殖器解剖、繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖生理）、精子生理（雄繁殖生理）、種付けの理論（妊娠と分娩）、家畜の審査及び発情鑑定（以下「特定科目」という。）にあつては第二十四条の二第一項の大学等において修得する程度の知識及び技能を、第一項各号に掲げる科目のうちその他の科目にあつては家畜人工授精の業務を的確に実施するのに必要な知識及び技能を修得することができるものでなければならない。

5 家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会における講習は、第二項各号に掲げる科目のうち特定科目、体内受精卵移植概論及び受精卵の生理及び形態にあつては第二十四条の二第一項の大学等において修得する程度の知識及び技能を、第二項各号に掲げる科目のうちその他の科目にあつては家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植の業務を的確に実施するのに必要な知識及び技能を修得することができるものでなければならない。

- 6 家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会における講習は、第三項各号に掲げる科目のうち特定科目、体内受精卵移植概論、受精卵の生理及び形態及び体外受精卵移植概論にあつては第二十四条の二第一項の大学等において修得する程度の知識及び技能を、第三項各号に掲げる科目のうちその他の科目にあつては家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務を的確に実施するのに必要な知識及び技能を修得することができるものでなければならない。

(修業試験)

第二十四条 講習会の修業試験は、家畜人工授精師となるのに必要な知識及び技能を有するかどうかを判定することを目的とし、家畜人工授精に関する講習会の修業試験にあつては前条第一項各号に掲げる科目について、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の修業試験にあつては同条第二項各号に掲げる科目について、家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の修業試験にあつては同条第三項各号に掲げる科目について行わなければならない。

- 2 受講時間が前条第一項第一号に掲げる科目を通じて五十五時間及び前条第一項第二号に掲げる科目を通じて六十時間に達しない者は、家畜人工授精に関する講習会の修業試験を受けることができない。
- 3 受講時間が前条第二項第一号に掲げる科目を通じて九十三時間及び前条第二項第二号に掲げる科目を通じて百二十時間に達しない者は、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の修業試験を受けることができない。
- 4 受講時間が前条第三項第一号に掲げる科目を通じて九十九時間及び前条第三項第二号に掲げる科目を通じて百三十七時間に達しない者は、家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の修業試験を受けることができない。

(受講及び修業試験の免除等)

第二十四条の二 学校教育法に基づく大学その他農林水産大臣の指定する教育機関(以下「大学等」という。)において第二十三条第一項各号に掲げる科目のうち特定科目、同条第二項各号に掲げる科目のうち特定科目、体内受精卵移植概論及び受精卵の生理及び形態又は同条第三項各号に掲げる科目のうち特定科目、体内受精卵移植概論、受精卵の生理及び形態及び体外受精卵移植概論の全部又は一部を修めた者(以下「受講等免除者」という。)に対しては、その修めた科目についての講習会の受講及び修業試験を免除するものとする。

- 2 他の種類の家畜について講習会の修業試験に合格している者に対しては、第二十三条第一項第一号に掲げる一般科目についての家畜人工授精に関する講習会の受講及び修業試験を免除するものとする。
- 3 牛について家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者に対しては、第二十三条第二項各号に掲げる科目のうち同条第一項各号に掲げるものについての家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験又は同条第三項各号に掲げる科目のうち同条第一項各号に掲げるものについての家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験を免除するものとする。
- 4 牛以外の種類の家畜について家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者に対しては、第二十三条第二項第一号に掲げる一般科目についての家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験又は同条第三項第一号に掲げる一般科目についての家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験を免除するものとする。
- 5 牛について家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の修業試験に合格している者に対しては、第二十三条第三項各号に掲げる科目のうち同条第二項各号に掲げるものについての家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験を免除するものとする。
- 6 受講等免除者は、第一項の規定による講習会の受講及び修業試験の免除を受けようとするときは、大学等において当該免除を受けようとする科目を修めたことを証する書面を、講習会の開始予定日までに講習会の開催者に提出しなければならない。
- 7 講習会の修業試験に合格している者は、第二項から第五項までの規定による講習会の受講及び修業試験の免除を受けようとするときは、講習会の修業試験に合格していることを証する書面を、講習会の開始予定日までに講習会の開催者に提出しなければならない。

- 8 受講等免除者又は他の種類の家畜について講習会の修業試験に合格している者は、受講時間が、第二十三条第一項第一号に掲げる科目のうち第一項又は第二項の規定による家畜人工授精に関する講習会の受講及び修業試験の免除に係る科目（以下「特定免除科目」という。）以外の科目を通じて第一号に掲げる時間及び同条第一項第二号に掲げる科目のうち特定免除科目以外の科目を通じて第二号に掲げる時間に達する場合には、前条第二項の規定にかかわらず、家畜人工授精に関する講習会の修業試験を受けることができる。
- 一 六十八時間から特定免除科目に係る第二十三条第一項第一号に規定する時間を控除して得た時間に十分の八を乗じて得た時間（一時間未満の端数があるときは、これを一時間に切り上げた時間）
 - 二 七十四時間から特定免除科目に係る第二十三条第一項第二号に規定する時間を控除して得た時間に十分の八を乗じて得た時間（一時間未満の端数があるときは、これを一時間に切り上げた時間）
- 9 受講等免除者、牛について家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者又は牛以外の種類の家畜について家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者は、受講時間が、第二十三条第二項第一号に掲げる科目のうち第一項、第三項又は第四項の規定による家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験の免除に係る科目（以下「免除科目の甲」という。）以外の科目を通じて第一号に掲げる時間及び同条第二項第二号に掲げる科目のうち免除科目の甲以外の科目を通じて第二号に掲げる時間に達する場合には、前条第三項の規定にかかわらず、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の修業試験を受けることができる。
- 一 百十六時間から免除科目の甲に係る第二十三条第二項第一号に規定する時間を控除して得た時間に十分の八を乗じて得た時間（一時間未満の端数があるときは、これを一時間に切り上げた時間）
 - 二 百五十時間から免除科目の甲に係る第二十三条第二項第二号に規定する時間を控除して得た時間に十分の八を乗じて得た時間（一時間未満の端数があるときは、これを一時間に切り上げた時間）
- 10 受講等免除者、牛について家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者、牛以外の種類の家畜について家畜人工授精に関する講習会の修業試験に合格している者又は牛について家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の修業試験に合格している者は、受講時間が、第二十三条第三項第一号に掲げる科目のうち第一項、第三項、第四項又は第五項の規定による家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の受講及び修業試験の免除に係る科目（以下「免除科目の乙」という。）以外の科目を通じて第一号に掲げる時間及び同条第三項第二号に掲げる科目のうち免除科目の乙以外の科目を通じて第二号に掲げる時間に達する場合には、前条第四項の規定にかかわらず、家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の修業試験を受けることができる。
- 一 百二十三時間から免除科目の乙に係る第二十三条第三項第一号に規定する時間を控除して得た時間に十分の八を乗じて得た時間（一時間未満の端数があるときは、これを一時間に切り上げた時間）
 - 二 百七十一時間から免除科目の乙に係る第二十三条第三項第二号に規定する時間を控除して得た時間に十分の八を乗じて得た時間（一時間未満の端数があるときは、これを一時間に切り上げた時間）
- （修業試験の合格証明書）
- 第二十五条 講習会の開催者は、修業試験合格者名簿を備えて、必要な事項を記入するとともに、修業試験に合格した者に対してその旨の証明書を交付するものとする。
- 2 前項の証明書には、次に掲げる事項を記載するものとする。
- 一 講習会の開催者の名称及び住所
 - 二 講習会の開催場所及び期日
 - 三 講習会に係る家畜の種類並びに家畜人工授精に関する講習会、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会又は家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の別
（家畜人工授精師の免許の申請）

第二十六条 法第十六条の規定により家畜人工授精師の免許を受けようとする者は、別記様式第十四号による申請書に次に掲げる書類を添えてその者の住所地を管轄する都道府県知事に提出しなければならない。

一 戸籍謄本若しくは戸籍抄本又は本籍（日本の国籍を有しない者にあつては、住民基本台帳法（昭和四十二年法律第八十一号）第三十条の四十五に規定する国籍等）の記載がある住民票の写し若しくは住民票記載事項証明書（同法第七条第一号、第二号及び第七号に掲げる事項を記載したものに限る。）

二 講習会の修業試験に合格した旨の証明書の写し

三 視覚、聴覚、音声機能若しくは言語機能、上肢の機能若しくは精神の機能の障害又は麻薬若しくは大麻の中毒者であるかどうかに関する医師の診断書

四 申請者が法第十七条第一項又は第二項第三号若しくは第四号に該当するかどうかの別を記載した書面

五 法第十七条第二項第三号に該当する場合にあつては、その確定判決謄本

（心身の障害により家畜人工授精師の業務を適正に行うことができない者）

第二十六条の二 法第十七条第二項第一号の農林水産省令で定める者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 視覚、聴覚、音声機能若しくは言語機能又は精神の機能の障害により家畜人工授精師の業務を適正に行うに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができない者

二 上肢の機能の障害により家畜人工授精師の業務を適正に行うに当たつて必要な技能を十分に発揮することができない者

（障害を補う手段等の考慮）

第二十六条の三 都道府県知事は、家畜人工授精師の免許の申請を行つた者が前条に規定する者に該当すると認める場合において、当該者に免許を与えるかどうかを決定するときは、当該者が現に利用している障害を補う手段又は当該者が現に受けている治療等により障害が補われ、又は障害の程度が軽減している状況を考慮しなければならない。

（精神障害の届出）

第二十六条の四 家畜人工授精師又はその法定代理人若しくは同居の親族は、当該家畜人工授精師が精神の機能の障害を有する状態となり家畜人工授精師の業務の継続が著しく困難になったときは、当該家畜人工授精師に免許を与えた都道府県知事にその旨を届け出るものとする。この場合においては、その病名、障害の程度、病因、病後の経過、治癒の見込みその他参考となる所見を記載した医師の診断書を添付しなければならない。

（家畜人工授精師免許証の様式）

第二十七条 法第十八条の家畜人工授精師免許証（以下「免許証」という。）は、別記様式第十五号による。

（免許証の記載事項の変更）

第二十八条 令第九条の農林水産省令で定める変更は、次に掲げるものとする。

一 本籍地都道府県名（日本の国籍を有しない者にあつては、その国籍）、住所又は氏名の変更

二 免許に係る家畜の種類並びに家畜人工授精の業務、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植の業務又は家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務の別の変更

（免許証の書換交付及び再交付の手続）

第二十九条 令第九条の規定による免許証の書換交付の申請は、別記様式第十六号による申請書に免許証を添えてしなければならない。

2 令第十条第一項の規定による免許証の再交付の申請は、別記様式第十六号による申請書を提出してしなければならない。この場合において、免許証を汚し、又は損じたためその再交付を申請しようとする者は、申請書に免許証を添えて提出しなければならない。

（家畜人工授精師名簿）

第三十条 令第十二条の農林水産省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 免許番号及び免許を与えた年月日

二 本籍地都道府県名（日本の国籍を有しない者にあつては、その国籍）、住所、氏名及び生年月日

三 講習会の修業試験に合格した年月日

四 免許に係る家畜の種類並びに家畜人工授精の業務、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植の業務又は家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務の別

五 法第十九条第一項又は第二項の処分をしたときは、その旨、事由及び年月日並びに業務の停止期間

六 免許証を書換交付し、又は再交付したときは、その旨、事由及び年月日
(授精証明書等の様式)

第三十一条 法第二十二条第二項の授精証明書、同項の体内受精卵移植証明書、同項の体外受精卵移植証明書及び同項の精液採取に関する証明書は、それぞれ別記様式第十七号、様式第十八号、様式第十九号及び様式第六号によるものとする。

第三節 家畜人工授精所

(家畜人工授精所の開設の許可の申請)

第三十二条 法第二十四条の規定により家畜人工授精所の開設の許可を受けようとする者は、別記様式第二十号による申請書に次に掲げる書類を添えて都道府県知事に提出しなければならない。

一 家畜人工授精所を管理すべき獣医師又は家畜人工授精師(家畜体内受精卵の処理又は家畜体外授精業務(法第十三条第六項に規定する家畜体外授精業務をいい、雌の家畜から家畜卵巣を採取する場合に限る。))を行う場合にあつては、当該家畜人工授精所を管理すべき獣医師)の免許証の写し

二 建物の平面図、配置図、付近の見取図

三 申請者が個人である場合にあつては、次に掲げる書類

イ 住民票の写し又は住民票記載事項証明書(住民基本台帳法第七条第一号及び第七号に掲げる事項を記載したもの(日本の国籍を有しない者にあつては、当該事項及び同法第三十条の四十五に規定する国籍等を記載したもの)に限る。)

ロ 法第二十五条第一項第二号又は第二項第二号若しくは第三号に該当するかどうかの別を記載した書面

ハ 法第二十五条第二項第二号に該当する場合にあつては、その確定判決謄本

四 申請者が法人である場合にあつては、次に掲げる書類

イ 定款又は寄附行為及び登記事項証明書(外国法令に基づいて設立された法人にあつては、これらに準ずるもの)

ロ 役員の氏名及び住所を記載した書面

ハ 役員(令第十三条に規定する使用人がある場合にあつては、当該使用人を含む。以下「役員等」という。)が法第二十五条第一項第三号又は第二項第四号に該当するかどうかの別を記載した書面

ニ 法第二十五条第二項第四号に該当する場合(役員等のうちに同項第二号に規定する者がある場合に限る。)にあつては、その確定判決謄本

(許可証の交付)

第三十三条 都道府県知事は、法第二十四条の許可をしたときは、次に掲げる事項を記載した家畜人工授精所の開設の許可証(以下「許可証」という。)を交付しなければならない。

一 家畜人工授精所の管理番号

二 開設の許可の年月日

三 家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称

四 家畜人工授精所の名称及び所在地

五 家畜の種類及びその業務の別

(許可証の備置き)

第三十四条 前条の規定による許可証の交付を受けた家畜人工授精所の開設者は、当該家畜人工授精所内に当該許可証を備え置かなければならない。

(家畜人工授精所の構造、設備等)

第三十五条 法第二十五条第一項第一号の農林水産省令で定める構造、設備及び器具は、次に掲げるものとする。

- 一 構造 処理室を有し、かつ、家畜人工授精用精液を採取し、若しくは注入し、家畜体内受精卵を採取し、若しくは移植し、又は家畜体外受精卵を移植する場合にあつて

は、その場所が外部から見えないような困障があるもの

二 設備 処理室が衛生的操作並びに家畜人工授精用精液又は家畜受精卵及び薬品の保管に支障がないもの

三 器具

イ 家畜人工授精を行う場合にあつては、その採取、検査、処理又は注入に必要な器具及びこれらの器具の消毒に必要な器具

ロ 家畜体内受精卵移植を行う場合にあつては、その採取、検査、処理又は移植に必要な器具及びこれらの器具の消毒に必要な器具

ハ 家畜体外受精卵移植を行う場合にあつては、家畜未受精卵の採取、処理、家畜体外授精、家畜体外受精卵の検査、処理又は移植に必要な器具及びこれらの器具の消毒に必要な器具

ニ 家畜人工授精用精液又は家畜受精卵の保存を行う場合にあつては、その保存に必要な器具

(開設の許可の申請者の使用人)

第三十六条 令第十三条の農林水産省令で定める者は、部長、次長、課長その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、家畜人工授精所の業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者とする。

(変更の届出等)

第三十七条 法第二十五条の二第一項の農林水産省令で定める事項は、次の事項(軽微な変更を除く。)とする。

一 家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称及び住所

二 家畜人工授精所の名称及び所在地

三 家畜人工授精所を管理すべき獣医師又は家畜人工授精師の氏名、住所及び登録番号又は免許番号

四 家畜の種類及びその業務の別

五 家畜人工授精所の構造、設備及び器具

六 家畜人工授精所の開設者が法人である場合にあつては、その役員の氏名及び住所

2 法第二十五条の二第一項の規定により変更の届出をしようとする家畜人工授精所の開設者は、当該変更の日から三十日以内に、別記様式第二十一号による届出書に変更事項に係る書類を添えてその許可を与えた都道府県知事に提出しなければならない。

3 法第二十五条の二第二項の規定により廃止し、休止し、又は休止した家畜人工授精所を再開しようとする家畜人工授精所の開設者は、別記様式第二十二号による届出書をその許可を与えた都道府県知事に提出しなければならない。

(許可証の書換交付)

第三十八条 家畜人工授精所の開設者は、許可証の記載事項に変更を生じたときは、その許可証を添え、遅滞なく、その許可を与えた都道府県知事に許可証の書換交付を申請しなければならない。

2 前項の規定による許可証の書換交付の申請は、別記様式第二十三号による申請書を提出してしなければならない。

(許可証の再交付)

第三十九条 家畜人工授精所の開設者は、許可証を汚し、損じ、又は失つたときは、遅滞なく、その許可を与えた都道府県知事に許可証の再交付を申請しなければならない。

- 2 前項の規定による許可証の再交付の申請は、別記様式第二十三号による申請書を提出してしなければならない。この場合において、許可証を汚し、又は損じたためその再交付を申請しようとする者は、申請書に許可証を添えて提出しなければならない。

(許可証の返納等)

第四十条 家畜人工授精所の開設者が次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、当該各号に定める者は、速やかに、その許可を与えた都道府県知事に許可証を返納しなければならない。

一 次に掲げる場合 当該家畜人工授精所の開設者

イ 法第二十六条第一項又は第二項の規定により開設の許可を取り消された場合

ロ 前条の規定による申請に係る許可証の再交付を受けた後において、亡失した許可証を発見した場合

二 死亡し、又は失踪の宣告を受けた場合 戸籍法（昭和二十二年法律第二百二十四号）による死亡又は失踪の届出義務者

三 法人が合併により消滅した場合 その法人を代表する役員であつた者

四 法人が破産手続開始の決定により解散した場合 その破産管財人

五 法人が前二号に掲げる理由以外の理由により解散した場合 その清算人

- 2 家畜人工授精所の開設者は、法第二十六条第二項の規定により家畜人工授精所の使用の停止を命じられたとき又は法第二十五条の二第二項の規定により家畜人工授精所を休止したときは、速やかに、その許可を与えた都道府県知事に許可証を提出しなければならない。

- 3 前項の規定により許可証の提出を受けた都道府県知事は、当該許可証に係る家畜人工授精所の使用の停止の期間が満了したとき又は家畜人工授精所が再開しようとするときには、直ちに当該許可証を返還しなければならない。

第四節 特定家畜人工授精用精液等の特例

(指定の公示)

第四十一条 法第三十二条の三第一項の規定による公示は、次に掲げる事項につきするものとする。

一 指定年月日

二 指定する家畜人工授精用精液等に係る家畜の種類

三 指定する家畜人工授精用精液等に係る家畜の品種

- 2 法第三十二条の三第一項の規定による公示は、官報に掲載してするものとする。

(容器への表示事項)

第四十二条 法第三十二条の四の農林水産省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 家畜人工授精用精液にあつては、次に掲げる事項

イ 当該家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の家畜の名前

ロ 当該家畜人工授精用精液の採取年月日

二 家畜体内受精卵にあつては、次に掲げる事項

イ 当該家畜体内受精卵が処理された家畜人工授精所等の管理番号

ロ 当該家畜体内受精卵の採取の用に供した雌の家畜及び当該家畜体内受精卵を採取するために種付けの用に供した雄の家畜の名前（牛の場合にあつては、当該家畜体内受精卵の採取の用に供した雌の家畜及び当該家畜体内受精卵を採取するために種付けの用に供した雄の家畜の名前又はこれらの個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法（平成十五年法律第七十二号）第二条第一項に規定するものをいう。以下同じ。））

ハ 当該家畜体内受精卵の採取年月日

三 家畜体外受精卵にあつては、次に掲げる事項

イ 当該家畜体外受精卵が生産された家畜人工授精所等の管理番号

ロ 当該家畜体外受精卵に係る家畜卵巣の採取の用に供した雌の家畜及び当該家畜体外受精卵に係る家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の家畜の名前（牛の場合にあつては、当該家畜体外受精卵に係る家畜卵巣の採取の用に供した雌の家畜及び当該家畜体外受精卵に係る家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の家畜の名前又はこれらの個体識別番号）

ハ 当該家畜体外受精卵の検査年月日

- 2 前項第一号イに規定する事項については、法第四条第一項の規定による種畜証明書が交付されていない雄の牛の名前である場合その他の雄の牛の名前を表示することが適当でない認められ

る場合には、当該家畜人工授精用精液の採取の用に供した雄の牛の個体識別番号をもつてその事項に代えることができる。

3 第一項に規定する事項のうち次の各号に掲げる事項については、それぞれ当該各号に定める事項をもつてその事項に代えることができる。

一 第一項第二号ロ及びハ 家畜体内受精卵証明書番号

二 第一項第三号ロ及びハ 家畜体外受精卵証明書番号

(容器への表示方法)

第四十三条 法第三十二条の四の容器への表示を行うに当たっては、次に掲げる方法で行うものとする。

一 特定家畜人工授精用精液等を収めた容器に表示する方法

二 特定家畜人工授精用精液等を収めた容器にラベルを貼ることにより表示する方法

(譲渡等記録簿の様式)

第四十四条 法第三十二条の五第一項の譲渡等記録簿の様式は、別記様式第二十四号によるものとする。

第二章の二 家畜登録事業

(登録規程の承認の申請)

第四十五条 法第三十二条の九第一項の規定により登録規程(同項に規定する登録規程をいう。以下同じ。)の承認を受けようとする者は、家畜登録事業(同項に規定する家畜登録事業をいう。以下同じ。)の開始予定期日の六十日前までに、別記様式第二十五号による申請書に登録規程及び家畜登録事業の事業計画書を添えて、農林水産大臣に提出しなければならない。

(登録規程の変更の承認の申請)

第四十六条 法第三十二条の九第三項の規定により登録規程の変更の承認を受けようとする者は、別記様式第二十六号による申請書を農林水産大臣に提出しなければならない。

(登録規程の承認の基準)

第四十七条 法第三十二条の九第四項の家畜改良増殖目標に即するものと認められない場合は、次のいずれかの場合とする。

一 登録規程に定める登録する家畜の種類のうち法第三条の二第一項に規定する家畜でないものが含まれている場合

二 登録規程に定める審査の基準が家畜の血統、能力又は体型について定められていない場合

三 登録規程に定める審査の基準が法第三条の二第一項の家畜改良増殖目標の達成に支障を及ぼすおそれのあるものである場合

2 法第三十二条の九第四項の家畜登録事業の公正な運営を行なうのに適切なものと認められない場合は、次のいずれかの場合とする。

一 登録規程に定める登録手数料が著しく高額である場合

二 登録規程に家畜登録簿を公表する旨の定めがない場合

(家畜登録事業の廃止の届出)

第四十八条 法第三十二条の九第五項の規定により家畜登録事業の廃止の届出をしようとする者は、家畜登録事業の廃止予定期日の六十日前までに、別記様式第二十七号による届出書を農林水産大臣に提出しなければならない。

第三章 雑則

(家畜人工授精所の運営状況の報告の方法等)

第四十九条 法第三十四条第三項の規定による報告は、毎年一月一日から十二月三十一日までの期間について作成し、当該期間の経過後四月以内に、次の各号に掲げる様式により行うものとする。

一 特定家畜人工授精用精液等に係る業務を行つている場合にあつては、別記様式第二十八号

二 家畜人工授精用精液又は家畜受精卵(特定家畜人工授精用精液等であるものを除く。)に係る業務を行つている場合にあつては、別記様式第二十九号

(身分を示す証明書の様式)

第五十条 法第三十五条第二項の証明書は、別記様式第三十号による。

(センターの立入検査等)

第五十一条 法第三十五条の二第三項の農林水産省令で定める条件は、第一条各号のいずれかに該当する者であることとする。

- 2 法第三十五条の二第四項の規定による報告は、遅滞なく、次に掲げる事項を記載した書面を提出してしなければならない。
- 一 立入り、質問、検査又は収去（以下「立入検査等」という。）を行つた畜舎、家畜人工授精所その他家畜人工授精又は家畜受精卵移植を行う場所の住所及び管理者の氏名（法人にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
 - 二 立入検査等を行つた年月日
 - 三 種畜の精液を収去した場合にあつては、当該種畜の名称並びに当該精液を所有する者の氏名及び住所（法人にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
 - 四 家畜受精卵を採取した場合にあつては、当該家畜受精卵を採取した家畜及び当該家畜受精卵の生産のために用いた種畜の名称並びに当該家畜受精卵を所有する者の氏名及び住所（法人にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
 - 五 立入検査等の結果
 - 六 その他参考となるべき事項

3 法第三十五条の二第三項において準用する法第三十五条第二項の証明書は、別記様式第三十一号による。

（権限の委任）

第五十二条 法第三十五条第一項並びに法第三十五条の二第一項、第二項及び第四項の規定による農林水産大臣の権限は、地方農政局長に委任する。ただし、農林水産大臣が自らその権限を行うことを妨げない。

附 則

（施行期日）

- 1 この省令は、家畜改良増殖法施行の日（昭和二十五年八月二十日）から施行する。
（講習会開催者の指定の特例）
- 2 この省令施行後三十日以内に法第十六条第二項の指定を受けようとする者は、第二十一条の規定にかかわらず、講習会の開始予定日前に同条の申請書を提出すればよい。
（種畜法施行規則の廃止）
- 3 種畜法施行規則（昭和二十三年農林省令第七十二号）は、廃止する。
（家畜人工授精の業務を行つている者の届出続）
- 4 法附則第十一項の届出は、その者の住所地を管轄する都道府県知事に別記様式第十五号による届出書（二通）に戸籍謄本又は戸籍抄本を添えてするものとする。
（家畜人工授精の業務を行つている施設の届出続）
- 5 法附則第十四項の届出は、当該施設の所在地を管轄する都道府県知事に別記様式第十六号による届出書（二通）に当該施設を管理する者の履歴書、当該施設の建物の平面図及び配置図並びに附近の見取図を添えてするものとする。
（農業災害補償法施行規則の一部改正）
- 6 農業災害補償法施行規則（昭和二十二年農林省令第九十五号）の一部を次のように改正する。
〔次のよう略〕
（家畜等の無償貸付及び譲与等に関する省令の一部改正）
- 7 家畜等の無償貸付及び譲与等に関する省令（昭和二十五年農林省令第四十二号）の一部を次のように改正する。
〔次のよう略〕

附 則〔昭和二六年五月三十一日農林省令第三五号〕

沿革

令和 二年 二月 五日号外農林水産省令第七号〔家畜伝染病予防法施行規則の一部を改正する省令による改正〕

令和 二年 六月二四日号外農林水産省令第四四号〔家畜伝染病予防法施行規則等の一部を改正する省令一条による改正〕

この省令は、家畜伝染病予防法の施行の日（昭和二十六年六月一日）から施行する。〔後略〕

附 則〔昭和二九年八月二八日農林省令第五三号〕

この省令は、公布の日から施行する。

附 則〔昭和三七年一月一三日農林省令第二号〕

- 1 この省令は、家畜改良増殖法の一部を改正する法律（昭和三十六年法律第百七十一号）の施行の日（昭和三十七年一月十五日）から施行する。
 - 2 家畜改良増殖法第四条第一項の種畜証明書、同法第九条第二項の種付台帳、同法第四項の種付証明書、同法第十三条第二項の家畜人工授精用精液証明書、同法第十五条第一項の家畜人工授精簿及び同法第二十二條第二項の授精証明書の様式については、昭和三十七年十二月三十一日まで、なお従前の例によることができる。
 - 3 この省令の施行の際現に交付されている家畜改良増殖法第十八条の家畜人工授精師免許証及び同法第三十五条第二項の身分を示す証票の様式については、なお従前の例による。
 - 附 則〔昭和三十八年四月二五日農林省令第三号〕
この省令は、昭和三十八年五月一日から施行する。
 - 附 則〔昭和四十六年三月一九日農林省令第一〇号〕
この省令は、昭和四十六年四月一日から施行する。
 - 附 則〔昭和四十六年八月二一日農林省令第六二号抄〕
 - 1 この省令は、昭和四十六年九月五日から施行する。〔後略〕
 - 附 則〔昭和四十八年一二月六日農林省令第七五号〕
この省令は、昭和四十九年四月一日から施行する。ただし、第二十一条、第二十二條及び第二十五條の改正規定のうち様式の改正規定以外のものについては、公布の日から施行する。
 - 附 則〔昭和五三年四月二八日農林省令第三一号〕
この省令は、昭和五十三年五月一日から施行する。
 - 附 則〔昭和五三年七月五日農林省令第四九号抄〕
- 第一条 この省令は、公布の日から施行する。
- 附 則〔昭和五四年三月二七日農林水産省令第一一号〕
(施行期日)
- 1 この省令は、昭和五十四年五月一日から施行する。
(経過措置)
 - 2 この省令の施行の日前に開始された講習会において課すべき科目及びその時間並びに当該講習会の修業試験については、なお従前の例による。
 - 附 則〔昭和五六年五月二二日農林水産省令第二〇号抄〕
 - 1 この省令は、昭和五十六年六月一日から施行する。
 - 附 則〔昭和五七年九月二七日農林水産省令第四〇号〕
この省令は、昭和五十七年十月一日から施行する。
 - 附 則〔昭和五八年一二月一八日農林水産省令第四八号〕
(施行期日)
 - 1 この省令は、家畜改良増殖法の一部を改正する法律（昭和五十八年法律第四十九号）の施行の日（昭和五十八年十一月十九日）から施行する。
(経過措置)
 - 2 この省令の施行の際現にこの省令による改正前の家畜改良増殖法施行規則第二十一条の規定による申請をしている者の家畜改良増殖法第十六条第二項の規定による指定については、なお従前の例による。
 - 3 この省令の施行の際現に交付されている家畜改良増殖法第十八条の家畜人工授精師免許証及び同法第三十五条第二項の身分を示す証票の様式については、なお従前の例による。
 - 附 則〔昭和五九年三月一日農林水産省令第二号〕
この省令は、公布の日から施行する。
 - 附 則〔昭和六〇年七月一二日農林水産省令第二七号〕
この省令は、公布の日から施行する。
 - 附 則〔平成元年六月六日農林水産省令第二七号〕
この省令は、公布の日から施行する。
 - 附 則〔平成四年二月二四日農林水産省令第五号〕
この省令は、公布の日から施行する。
 - 附 則〔平成四年五月二〇日農林水産省令第二九号〕
この省令は、公布の日から施行する。
 - 附 則〔平成四年一二月一一日農林水産省令第五三号抄〕

(施行期日)

- 1 この省令は、家畜改良増殖法の一部を改正する法律（平成四年法律第四十七号）の施行の日（平成四年十一月十九日）から施行する。
- (経過措置)
- 2 この省令の施行の際現にこの省令による改正前の家畜改良増殖法施行規則（以下「旧規則」という。）第二十一条の規定により家畜人工授精及び家畜受精卵移植に関する講習会の開催者の指定の申請を行っている者については、この省令による改正後の家畜改良増殖法施行規則（以下「新規則」という。）第二十一条の規定により家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の開催者の指定の申請を行っている者とみなす。
 - 3 この省令の施行の際現に旧規則第二十五条の規定により家畜体外受精卵移植に関する講習会の修業試験に合格した者である旨の証明書の交付を受けている者は、新規則第二十五条の規定により家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植に関する講習会の修業試験に合格した者である旨の証明書の交付を受けている者とみなす。
 - 4 この省令の施行の際現に旧規則第二十六条の規定により家畜人工授精師免許証の申請を行っている者の申請書（家畜体外受精卵移植講習会修業試験合格者である旨の記載のあるものを除く。）の様式については、なお従前の例による。
 - 5 この省令の施行の際現に旧規則第二十六条の規定により家畜人工授精師免許証の申請を行っている者の申請書のうち家畜体外受精卵移植講習会修業試験合格者である旨の記載のあるものについては、新規則第二十六条の規定により家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務について家畜人工授精師免許証の申請を行っている者とみなす。
 - 6 この省令の施行の際現に交付されている家畜人工授精師免許証（家畜体外受精卵移植講習会修業試験合格者である旨の付記がされているものを除く。）の様式については、なお従前の例による。
 - 7 この省令の施行の際現に交付されている家畜人工授精師免許証のうち家畜体外受精卵移植講習会修業試験合格者である旨の付記がされているものについては、家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務に係る家畜人工授精師免許証とみなす。
 - 8 この省令の施行の際現に旧規則第三十二条の規定により家畜人工授精所の許可の申請を行っている者の申請書の様式については、なお従前の例による。
 - 9 この省令の施行の際現に交付されている家畜改良増殖法第三十五条第二項の身分を示す証票の様式については、なお従前の例による。

附 則〔平成五年四月一日農林水産省令第一二号〕

- 1 この省令は、公布の日から施行する。
- 2 この省令による改正前の〔中略〕家畜改良増殖法施行規則〔中略〕（以下「関係省令」という。）に規定する様式による書面は、平成六年三月三十一日までの間は、これを使用することができる。
- 3 平成六年三月三十一日以前に使用されたこの省令による改正前の関係省令に規定する様式による書面は、この省令による改正後の関係省令に規定する様式による書面とみなす。

附 則〔平成六年三月二五日農林水産省令第一七号〕

- 1 この省令は平成六年四月一日から施行する。
- 2 平成五年十二月三十一日を含む事業年度における家畜登録事業に係る報告については、なお従前の例による。
- 3 この省令の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則〔平成六年一月一日農林水産省令第七八号〕

この省令は、公布の日から施行する。

附 則〔平成一〇年三月二五日農林水産省令第一四号抄〕

(施行期日)

- 1 この省令は、家畜伝染病予防法の一部を改正する法律（平成九年法律第三十四号）の施行の日（平成十年四月一日）から施行する。

附 則〔平成一一年一月一日農林水産省令第一号抄〕

- 1 この省令は、公布の日から施行する。

2 この省令による改正前の〔中略〕家畜改良増殖法施行規則〔中略〕（以下「関係省令」という。）に規定する様式による書面は、平成十一年三月三十一日までの間は、これを使用することができる。

4 平成十一年三月三十一日以前に使用されたこの省令による改正前の関係省令に規定する様式による書面は、この省令による改正後の関係省令に規定する様式による書面とみなす。

附 則〔平成一二年一月三十一日農林水産省令第五号抄〕

（施行期日）

第一条 この省令は、平成十二年四月一日から施行する。

（家畜改良増殖法施行規則の一部改正に伴う経過措置）

第三条 この省令の施行の際現に交付されている家畜改良増殖法（昭和二十五年法律第二百九号）

第四条第一項の種畜証明書の様式については、なお従前の例による。

附 則〔平成一二年三月二日農林水産省令第二二号〕

この省令は、平成十二年四月一日から施行する。

附 則〔平成一二年九月一日農林水産省令第八二号抄〕

（施行期日）

第一条 この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成十一年法律第八十八号）の施行の日（平成十三年一月六日）から施行する。〔後略〕

附 則〔平成一三年三月二二日農林水産省令第五九号抄〕

（施行期日）

第一条 この省令は、平成十三年四月一日から施行する。

（処分、申請等に関する経過措置）

第三条 この省令の施行前に改正前のそれぞれの省令の規定によりされた承認等の処分その他の行為（以下「承認等の行為」という。）又はこの省令の施行の際現に改正前のそれぞれの省令の規定によりされている承認等の申請その他の行為（以下「申請等の行為」という。）は、この省令の施行の日以後における改正後のそれぞれの省令の適用については、改正後のそれぞれの省令の相当規定によりされた承認等の行為又は申請等の行為とみなす。

附 則〔平成一四年七月一二日農林水産省令第六三号〕

この省令は、障害者等に係る欠格事由の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律〔平成一四年五月法律第四三号〕の施行の日（平成十四年七月十四日）から施行する。

附 則〔平成一五年三月二八日農林水産省令第二三号〕

この省令は、平成十五年四月一日から施行する。

附 則〔平成一六年三月一八日農林水産省令第一八号〕

この省令は、平成十六年三月二十九日から施行する。

附 則〔平成一七年三月二四日農林水産省令第三〇号〕

（施行期日）

1 この省令は、平成十七年四月一日から施行する。

（経過措置）

2 別記様式第四号及び別記様式第九号については、平成十七年六月三十日までの間は、なおこの省令による改正前の家畜改良増殖法施行規則（以下「旧規則」という。）による様式により作成することができる。

3 平成十七年六月三十日以前に作成された旧規則別記様式第四号及び別記様式第九号による書面は、この省令による改正後の家畜改良増殖法施行規則別記様式第四号及び別記様式第九号による書面とみなす。

附 則〔平成一九年三月三〇日農林水産省令第二二号〕

（施行期日）

第一条 この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令による改正後の家畜改良増殖法施行規則（以下「新規則」という。）別記様式第七号、別記様式第七号の二及び別記様式第七号の三による書面は、平成二十年三月三十一日までの間は、なおこの省令による改正前の家畜改良増殖法施行規則（以下「旧規則」という。）別記様式第七号、別記様式第七号の二及び別記様式第七号の三により作成することができる。

- 2 平成二十年三月三十一日以前に旧規則別記様式第七号、別記様式第七号の二及び別記様式第七号の三により作成された書面は、新規則別記様式第七号、別記様式第七号の二及び別記様式第七号の三により作成された書面とみなす。
- 3 この省令の施行の際現にある旧規則別記様式第二十号及び別記様式第二十一号により使用されている書類は、新規則別記様式第二十号及び別記様式第二十一号によるものとみなす。
- 4 この省令の施行の際現にある旧規則別記様式第二十号及び別記様式第二十一号により調製した用紙は、この省令の施行後においても当分の間、これを取り繕って使用することができる。

附 則〔平成二〇年一月二八日農林水産省令第七三号抄〕

(施行期日)

- 1 この省令は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律〔平成一八年六月法律第四八号〕の施行の日(平成二十年十二月一日)から施行する。

附 則〔平成二四年一月四日農林水産省令第一号〕

この省令は、平成二十四年四月一日から施行する。

附 則〔平成二四年七月六日農林水産省令第四〇号抄〕

(施行期日)

- 1 この省令は、住民基本台帳法の一部を改正する法律〔平成二一年七月法律第七七号〕の一部及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律〔平成二一年七月法律第七九号〕の施行の日(平成二十四年七月九日)から施行する。

附 則〔平成二八年四月一九日農林水産省令第三四号〕

(施行期日)

第一条 この省令は、平成二十九年四月一日から施行する。ただし、第二十三条の改正規定並びに別記様式第七号、別記様式第九号及び別記様式第十号の改正規定は、公布の日から施行する。

(経過措置)

第二条 平成二十九年四月一日前に作成されたこの省令による改正前の家畜改良増殖法施行規則別記様式第二号による書面は、この省令による改正後の家畜改良増殖法施行規則別記様式第二号による書面とみなす。

- 2 前条ただし書に規定する規定の施行の前日に作成されたこの省令による改正前の家畜改良増殖法施行規則別記様式第七号、別記様式第九号及び別記様式第十号による書面は、この省令による改正後の家畜改良増殖法施行規則別記様式第七号、別記様式第九号及び別記様式第十号による書面とみなす。

附 則〔平成三〇年一月一六日農林水産省令第二号〕

この省令は、平成三十一年四月一日から施行する。

附 則〔平成三〇年五月一日農林水産省令第三一号〕

この省令は、公布の日から施行する。

附 則〔令和元年六月二七日農林水産省令第一〇号〕

(施行期日)

第一条 この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律〔平成三〇年五月法律第三三号〕の施行の日(令和元年七月一日)から施行する。

(経過措置)

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式(次項において「旧様式」という。)により使用されている書類は、この省令による改正後の様式によるものとみなす。

- 2 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙については、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

附 則〔令和元年九月一三日農林水産省令第二九号〕

この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律〔令和元年六月法律第三七号〕の施行の日〔令和元年九月一四日〕から施行する。ただし、第二条、第五条及び第七条から第九条までの規定は、同法附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日〔令和元年一二月一四日〕から施行する。

附 則〔令和元年一二月一六日農林水産省令第四七号〕

この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部

を改正する法律〔令和元年五月法律第一六号〕の施行の日（令和元年十二月十六日）から施行する。

附 則〔令和二年二月五日農林水産省令第七号抄〕

（施行期日）

第一条 この省令は、家畜伝染病予防法の一部を改正する法律〔令和二年二月法律第二号〕の施行の日〔令和二年二月五日〕から施行する。

附 則〔令和二年六月二四日農林水産省令第四四号抄〕

（施行期日）

第一条 この省令は、家畜伝染病予防法の一部を改正する法律〔令和二年四月法律第一六号〕の施行の日（令和二年七月一日）から施行する。〔後略〕

（経過措置）

第二条 この省令の施行前にされたこの省令による改正前のそれぞれの省令に規定する牛ウイルス性下痢・粘膜病、牛白血病、牛丘疹性口炎、トリパノソーマ病、トリコモナス病、馬モルビリウイルス肺炎、トキソプラズマ病、山羊関節炎・脳脊髄炎、豚エンテロウイルス性脳脊髄炎、伝染性気管支炎、伝染性喉頭気管炎、鶏結核病、鶏マイコプラズマ病、ロイコチトゾーン病、あひる肝炎、兎ウイルス性出血病、バロア病又はノゼマ病に係る処分、手続その他の行為は、それぞれこの省令による改正後のそれぞれの省令に規定する牛ウイルス性下痢、牛伝染性リンパ腫、牛丘疹性口内炎、トリパノソーマ症、トリコモナス症、ヘンドラウイルス感染症、トキソプラズマ症、山羊関節炎・脳炎、豚テシオウイルス性脳脊髄炎、鶏伝染性気管支炎、鶏伝染性喉頭気管炎、鳥結核、鳥マイコプラズマ症、ロイコチトゾーン症、あひるウイルス性肝炎、兎出血病、バロア症又はノゼマ症に係る処分、手続その他の行為としてされたものとみなす。

2 この省令の施行前にされた第二条の規定による改正前の家畜改良増殖法施行規則に規定するブルセラ病に係る処分、手続その他の行為は、同条の規定による改正後の家畜改良増殖法施行規則に規定するブルセラ症に係る処分、手続その他の行為としてされたものとみなす。

附 則〔令和二年九月二八日農林水産省令第六四号〕

（施行期日）

第一条 この省令は、家畜改良増殖法の一部を改正する法律〔令和二年四月法律第二一号〕の施行の日（令和二年十月一日）から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令による改正後の家畜改良増殖法施行規則第四十九条第一号の規定は、令和四年一月一日以降の期間に係る報告について適用することとし、令和二年一月一日から十二月三十一日までの期間に係る報告については、同号中「別記様式第二十八号」とあるのは「別記様式第二十九号」とし、令和三年一月一日から十二月三十一日までの期間に係る報告については、同条中「一月一日」とあるのは「四月一日」とする。

別記

種 畜 検 査 申 請 書

年 月 日

独立行政法人家畜改良センター理事長（都道府県知事）殿

飼養者 住所

氏名又は名称 印

家畜改良増殖法第4条第1項の規定により下記の家畜について種畜検査を受けたいので、申請します。

記

- 1 名前
(家畜登録機関名及び登録番号)
- 2 種類及び品種
- 3 毛色
- 4 特徴
- 5 生年月日
- 6 産地
- 7 血統

{	父（登録番号）	{	祖父
		}	祖母
	母（登録番号）	{	祖父
		}	祖母
- 8 その他

(日本産業規格A4)

備考

- 1 氏名を自署する場合においては、押印を省略することができる。
- 2 現に種畜証明書の交付を受けている場合にあつては、1の名前に当該種畜証明書の番号を記入すること。
この場合には、2の種類及び品種から7の血統までを省略することができる。
- 3 牛については、特徴の欄に個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。
- 4 8のその他には、当該家畜から採取された家畜人工授精用精液に係る使用する者の範囲又は使用の目的に関する制限を記載することができる。

様式第二号〔第八条〕

(表)				
種 畜 証 明 書				
名 前	(家畜登録機関名及び登録番号)			
種 類		品 種		
毛 色		特 徴		
生年月日				
産 地				
血 統	父	(登録番号)	祖 父	
			祖 母	
	母	(登録番号)	祖 父	
			祖 母	
等 級		有 効 区 域		
上記の家畜は、家畜改良増殖法第4条の規定による検査に合格した種畜であることを証明する。 <div style="text-align: right;">農林水産省（都道府県） 印</div>				
(日本産業規格A4)				
(裏)				
種畜証明書 番号	検査年月日	有効期間	検査担当者氏名	
変更年月日	飼養者の氏名又は名称及び住所		発行者証印	
その他特記すべき事項	記載年月日	検査担当者氏名		
(日本産業規格A4)				

備考

牛については、特徴の欄に個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

種畜証明書書換交付（再交付）申請書		
	年	月 日
農林水産大臣（都道府県知事）	殿	
飼養者	住所	
	氏名又は名称	印
<p>家畜改良増殖法施行令第5条（第6条第1項）の規定により種畜証明書の書換交付（再交付）を受けたいので、下記により申請します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 種畜証明書番号</p> <p>2 種畜の名前、種類及び品種</p> <p>3 家畜登録機関名及び登録番号</p> <p>4 申請の事由（飼養者の変更の場合にあつては、旧飼養者の住所及び氏名又は名称を記載し、旧飼養者が証印すること。）</p>		

（日本産業規格 A 4）

備考

記の4の括弧書きに該当する場合を除き、氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

種付けた雌	番 号	
	名 前	
	家畜登録機関名及び登録番号	
	種 類 及 び 品 種	
	毛 色 及 び 特 徴	
	生 年 月 日	
	飼養者の氏名又は名称及び住所	
	摘 要	
種 付 年 月 日	月日 月日 月日 月日	
種証明付書	発 行 年 月 日	
	番 号	
子 畜	性	
	生 年 月 日	
	摘 要	

その二 (種付けに関する事項)

種付台帳 (精液採取台帳)			
種	種畜証明書番号		
	名 前		
	家畜登録	家畜登録機関名	
		登 録 番 号	
	種 類 及 び 品 種		
畜	生 年 月 日		
	血 統	父	
		母	
	種畜飼養者 住 所 氏名又は名称		

様式第四号 (第一四条)
その一 (種付台帳の表紙)

備考

- この帳簿には、自然種付けに関する事項を記載し、又は記録すること。
- 豚については、子畜の性の欄に雄及び雌の別にその頭数を記載し、又は記録すること。
- 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

備考

種付台帳は、書面により作成する場合にあつては種畜ごとに別冊としてつづり、電磁的記録により作成する場合にあつては種畜ごとに明確に区分すること。

採取年月日	採取時刻	採取量	色 (※)	臭気 (※)	PH (※)	精子数 (※)	活力及び生存率 (※)	き型率 (※)	き积液及びき積倍率 (※)	凍結後の活力及び生存率 ※	封を施した本数及び家畜人工授精用精液証明書番号	採取した獣医師又は家畜人工授精師の氏名
											本 号から 号まで	獣医師（家畜人工授精師）
若しくは譲渡又は授精	年 月 日	家畜人工授精用精液証明書番号	譲渡量	譲渡先又は注入を受けた雌畜の飼養者若しくは体外授精に係る未受精卵の所有者の氏名又は名称及び住所				摘 要				

その三 (家畜人工授精用精液の採取等に関する事項)

備考

- この帳簿には、家畜人工授精用精液の1回の採取ごとにその採取及び処理に関する事項を記載し、又は記録し、あわせてその譲渡又はその場における注入若しくは体外授精に関する事項を記載し、又は記録すること。
- (※)印及び※印の欄には、種畜の飼養者が獣医師又は家畜人工授精師でない場合は記載又は記録を要せず、※印の欄には、精液を凍結処理しない場合は記載又は記録を要しない。
- 精液を採取し、封を施すことなく、その場で雌畜に注入し、又は体外授精を行ったときは、摘要欄に注入量又は体外授精量及び精液採取に関する証明書（乙）番号を記載し、又は記録すること。

年次						
種 付 け	種付回数	計				
	種頭 回数 別実	1回				
		2回				
		3回				
		4回以上				
	受胎数					
	不受胎数					
	不明数					
	産子数	雄				
		雌				
計						
精採取の	精液採取回数					
	精液譲渡量					

その四（年次別の種付け及び精液採取の成績表）

備考

- この表には、種畜の飼養者が自然種付け及び精液の採取に関する年次別の成績をとりまとめて記載し、又は記録し、これを種付台帳とともに保存すること。
- 年次の期間は、その年の1月1日から12月31日までとすること。
- 種付回数は、1発情期間内に2回以上種付けした場合でも1回として計算すること。

様式第五号〔第一四条〕

第 号

種 付 証 明 書

区 分	種付けされた雌畜	種 畜			
名 前			種畜証明書 番号		
家畜登録機関名 及び登録番号					
種類及び品種					
毛 色		種 付 年 月 日			
特 徴		年 月 日	印	年 月 日	印
生 年 月 日		年 月 日	印	年 月 日	印
雌畜の飼養者の 氏名又は名称及 び住所					

上記のとおり種付けしたことを証明する。

年 月 日

種畜飼養者 住 所
氏名又は名称

印

(日本産業規格A5)

備考

牛については、特徴の欄に個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

第 号		精液採取に関する証明書（甲）	
精液を採取した種畜	種畜証明書番号		種畜の等級
	名 前		
	家畜登録機関名 及び登録番号		
	種類及び品種		
精 液 採 取 年 月 日		年 月 日	
※精液を採取した獣医師（家畜人工授精師）の登録番号（免許番号）及び住所・氏名			
（※）精液の採取量及び性状			
（※）き 積 液 及 び き 積 倍 率			

上記のとおり家畜人工授精用精液を採取したことを証明する。
年 月 日

（※）獣医師（家畜人工授精師）
登録番号(免許番号) (県) 第 号
住所
氏名 印
※種畜飼養者 住所
氏名又は名称 印

（備考） この証明書は、精液を採取した獣医師又は家畜人工授精師とその種畜の飼養者が異なる場合に使用するものである。

(日本産業規格 A 5)

備考

- ※印の欄には、精液を採取した獣医師又は家畜人工授精師が種畜の飼養者に対して交付する場合は、記載を要しない。
- （※）印の欄には、種畜の飼養者が精液を採取した獣医師又は家畜人工授精師に対して交付する場合は、記載を要しない。
- 精液を凍結処理した場合は、用紙の右肩に凍結と記載すること。

第 号
(番号又は記号)

家畜人工授精用精液証明書

種畜証明書番号		種畜の等級	
名前			
家畜登録機関名及び登録番号			
種類及び品種			
精液採取年月日			
種畜飼養者の氏名又は名称及び住所	印		
獣医師（家畜人工授精師）の登録番号（免許番号）及び住所、氏名	印		

様式第七号（第二〇条）
（家畜人工授精用精液証明書の表）

（日本産業規格 A 7）

備考

- この証明書は、家畜人工授精用精液の容器に添付すること。
- 精液を凍結処理した場合は、用紙の右肩に「凍結」と記載すること。
- 精液を混合処理した場合は、用紙の右肩に「混合」と記載すること。その場合、精液を採取した種畜の名前の欄については、その精液が混合されている種畜のうち少なくとも1頭について記載し、併せて合計頭数がわかるよう記載すること。
- この証明書が添付されている容器の精液の注入を受けた雌畜の飼養者から授精証明書の交付を要求されたときは、この証明書を授精証明書にはり付けること。授精証明書の交付を要求される前においては、この証明書を家畜人工授精簿に添付しておくこと。ただし、家畜人工授精簿が電磁的記録により作成されている場合にあつては、必要ときに速やかに家畜人工授精簿に記録されている事項と照合できるよう適切に保管しておくこと。
- この証明書が添付されている容器の精液を用いて家畜体外授精を行ったときは、この証明書を家畜人工授精簿に添付しておくこと。ただし、家畜人工授精簿が電磁的記録により作成されている場合にあつては、必要ときに速やかに家畜人工授精簿に記録されている事項と照合できるよう適切に保管しておくこと。
- 後代検定期間中等の保管精液であつて、検定終了後その精液を家畜人工授精所から譲渡する時に、当該精液を採取した種畜の等級が変わっていれば、その種畜証明書番号及び種畜の等級を併記しても差し支えない。
- （番号又は記号）の欄には、家畜人工授精用精液を収めた容器を識別することができる番号又は記号を表示することができる。
- この証明書を作成した獣医師又は家畜人工授精師は、この証明書に記載された家畜人工授精用精液について、当該家畜人工授精用精液の生産の事業を行う者の求めに応じ、使用する者の範囲又はその使用の目的に関する制限がある場合は、本証明書における任意の場所に当該制限の内容を表示することができる。なお、当該制限の内容を概要で記載の上、当該制限を表示したウェブサイトのアドレス又は当該家畜人工授精用精液の生産の事業を行う者の電話番号等を記載することもできる。
- この証明書に記載された家畜人工授精用精液と分けて、本証明書のみを他人に譲渡してはならない。

その二（家畜人工授精用精液証明書の裏）

譲渡・経由の確認

譲渡者の住所、氏名又は名称及び譲渡をした年月日	譲受者の住所、氏名又は名称及び譲受けをした年月日

（参考）注入又は体外授精記録

獣医師（家畜人工授精師）の登録番号（免許番号）及び氏名	（県）第 号 団
注入を受けた雌畜の飼養者又は体外授精に係る未受精卵の所有者の氏名又は名称	
注入を受けた雌畜又は体外授精に係る未受精卵を採取した卵巣を採取した雌畜の名称	
家畜登録機関名及び登録番号	
注入又は体外授精年月日	

備考

譲渡・経由の確認の表中の「譲渡者の住所、氏名又は名称」及び「譲受者の住所、氏名又は名称」には、保存を委託している場合等はその委託先である家畜人工授精所等を併記することができる。

第 号 (番号又は記号)		家畜体内受精卵証明書	
交配した種畜	種畜証明書番号		等級
	名前		
	家畜登録機関名及び登録番号		
	品種		
体内受精卵を採取した雌畜	名前		
	家畜登録機関名及び登録番号		
	品種		
	(個体識別番号)		
種付証明書番号又は家畜人工授精用精液証明書番号			
種付け又は精液注入年月日			
体内受精卵採取年月日			
雌畜の飼養者の氏名又は名称及び住所			
獣医師の登録番号、住所及び氏名		印	

様式第八号〔第二〇条〕
その一（家畜体内受精卵証明書の表）

（日本産業規格A6）

備考

- この証明書は、家畜体内受精卵の容器に添付すること。
- 体内受精卵を凍結処理した場合は、用紙の右肩に「凍結」と記載すること。
- この証明書が添付されている容器の体内受精卵の移植を受けた雌畜の飼養者から体内受精卵移植証明書の交付を要求されたときは、この証明書を体内受精卵移植証明書にはり付けること。体内受精卵移植証明書の交付を要求される前においては、この証明書を家畜人工授精簿に添付しておくこと。ただし、家畜人工授精簿が電磁的記録により作成されている場合にあつては、必要ときに速やかに家畜人工授精簿に記録されている事項と照合できるよう適切に保管しておくこと。
- 後代検定期間中等の種畜の精液による体内受精卵を家畜人工授精所から譲渡する時に、当該種畜の後代検定が終了し、その等級が変わっていれば、その種畜証明書番号及び種畜の等級を併記しても差し支えない。
- （番号又は記号）の欄には、家畜体内受精卵を収めた容器を識別することができる番号又は記号を表示することができる。
- 牛については、（個体識別番号）の欄に個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。
- この証明書を作成した獣医師は、この証明書に記載された家畜体内受精卵について、当該家畜体内受精卵の生産の事業を行う者の求めに応じ、使用する者の範囲又はその使用の目的に関する制限がある場合は、本証明書における任意の場所に当該制限の内容を表示することができる。なお、当該制限の内容を概要で記載の上、当該制限を表示したウェブサイトのアドレス又は当該家畜体内受精卵の生産の事業を行う者の電話番号等を記載することもできる。
- この証明書に記載された家畜体内受精卵と分けて、本証明書のみを他人に譲渡してはならない。

その二
(家畜体内受精卵証明書の裏)

譲渡・経由の確認

譲渡者の住所、氏名又は名称及び譲渡をした年月日	譲受者の住所、氏名又は名称及び譲受けをした年月日

(参考) 移植記録

獣医師（家畜人工授精師）の登録番号（免許番号）及び氏名	（県）第 号 印
移植を受けた雌畜の飼養者の氏名又は名称	
移植を受けた雌畜の名前	
家畜登録機関名及び登録番号	
品 種	
毛 色 及 び 特 徴	
移 植 年 月 日	

備考

- 1 譲渡・経由の確認の表中の「譲渡者の住所、氏名又は名称」及び「譲受者の住所、氏名又は名称」には、保存を委託している場合等は、その委託先である家畜人工授精所等を併記することができる。
- 2 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

第 号 (番号又は記号)		家畜体外受精卵証明書	
交配した種畜	種畜証明書番号		等級
	名前		
	家畜登録機関名及び登録番号		
	品種		
雌ら畜卵 畜卵巢(そ を採 取し た た か 雌 畜を 含む。)	名前		
	家畜登録機関名及び登録番号		
	品種		
	(個体識別番号)		
家畜人工授精用精液証明書番号			
体外授精年月日			
体外受精卵検査年月日			
卵巢を採取した雌畜(そのとた いから卵巢を採取した雌畜を 含む。)の飼養者の氏名又は名称 及び住所			
獣医師(家畜人工授精師)の登 録番号(免許番号)、住所及び 氏名		印	

様式第九号〔第二〇条〕
その一(家畜体外受精卵証明書の表)

(日本産業規格A6)

備考

- この証明書は、家畜体外受精卵の容器に添付すること。
- 体外受精卵を凍結処理した場合は、用紙の右肩に「凍結」と記載すること。
- この証明書が添付されている容器の体外受精卵の移植を受けた雌畜の飼養者から体外受精卵移植証明書の交付を要求されたときは、この証明書を体外受精卵移植証明書にはり付けること。体外受精卵移植証明書の交付を要求される前においては、この証明書を家畜人工授精簿に添付しておくこと。ただし、家畜人工授精簿が電磁的記録により作成されている場合にあつては、必要なときに速やかに家畜人工授精簿に記録されている事項と照合できるように適切に保管しておくこと。
- 後代検定期間中等の種畜の精液による体外受精卵を家畜人工授精所から譲渡する時に、当該種畜の後代検定が終了し、その等級が変わっていれば、その種畜証明書番号及び種畜の等級を併記しても差し支えない。
- (番号又は記号)の欄には、家畜体外受精卵を収める容器を識別することができる番号又は記号を表示することができる。
- 牛については、(個体識別番号)の欄に個体識別番号(牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項(平成15年法律第72号)の個体識別番号をいう。)に記載すること。
- この証明書を作成した獣医師又は家畜人工授精師は、この証明に記載された家畜体外受精卵について、当該家畜体外受精卵の生産の事業を行う者の求めに応じ、使用する者の範囲又はその使用の目的に関する制限がある場合は、本証明書における任意の場所に当該制限の内容を表示することができる。なお、当該制限の内容を概要で記載の上、当該制限を表示したウェブサイトのアドレス又は当該家畜人工授精用精液の生産の事業を行う者の電話番号等を記載することもできる。
- この証明に記載された家畜体外受精卵と分けて、本証明書のみを他人に譲渡してはならない。

その二
(家畜体外受精卵証明書の裏)

譲渡・経由の確認

譲渡者の住所、氏名又は名称及び譲渡をした年月日	譲受者の住所、氏名又は名称及び譲受けをした年月日

(参考) 移植記録

獣医師（家畜人工授精師）の登録番号（免許番号）及び氏名	（県）第 号 印
移植を受けた雌畜の飼養者の氏名又は名称	
移植を受けた雌畜の名前	
家畜登録機関名及び登録番号	
品 種	
毛 色 及 び 特 徴	
移 植 年 月 日	

備考

- 1 譲渡・経由の確認の表中の「譲渡者の住所、氏名又は名称」及び「譲受者の住所、氏名又は名称」には、保存を委託している場合等は、その委託先である家畜人工授精所等を併記することができる。
- 2 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

第 号

精液採取に関する証明書（乙）

精液を採取した種畜	種畜証明書番号		種畜の等級	
	名前			
	家畜登録機関名及び登録番号			
	種類及び品種			
	飼養者の氏名又は名称及び住所			
精液採取年月日				

上記のとおり種畜から精液を採取したことを証明する。

年 月 日

獣医師（家畜人工授精師）

登録番号（免許番号）（県）第 号

住所

氏名

印

（備考）

この証明書は、精液を採取し、封を施すことなくその場で雌畜に注入し、又は体外授精を行った場合に、精液を採取した獣医師又は家畜人工授精師が当該雌畜の飼養者又はこの精液を用いて体外授精を行った獣医師若しくは家畜人工授精師に対して交付するものである。

（日本産業規格A5）

備考

この証明書を作成した獣医師又は家畜人工授精師は、この証明書に記載された家畜人工授精用精液について、当該家畜人工授精用精液の生産の事業を行う者の求めに応じ、使用する者の範囲又はその使用の目的に関する制限がある場合は、本証明書における任意の場所に当該制限の内容を表示することができる。なお、当該制限の内容を概要で記載の上、当該制限を表示したウェブサイトのアドレス又は当該家畜人工授精用精液の生産の事業を行う者の電話番号等を記載することもできる。

様式第十一号〔第二〇条〕

第 号

体内受精卵採取に関する証明書

交配した種畜	種畜証明書番号		等級	
	名前			
	家畜登録機関名及び登録番号			
	品	種		
体内受精卵を採取した雌畜	名前			
	家畜登録機関名及び登録番号			
	品	種		
	(個体識別番号)			
	飼養者の氏名又は名称及び住所			
体内受精卵採取年月日				
種付証明書番号又は家畜人工授精用精液証明書番号				

上記のとおり雌畜から体内受精卵を採取したことを証明する。

年 月 日

獣医師 登録番号 第 号
住 所
氏 名 団

(日本産業規格A5)

備考

- 1 牛については、「(個体識別番号)」の欄に個体識別番号(牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項(平成15年法律第72号)の個体識別番号をいう。)を記載すること。
- 2 この証明書を作成した獣医師は、この証明書に記載された家畜体内受精卵について、当該家畜体内受精卵の生産の事業を行う者の求めに応じ、使用する者の範囲又はその使用の目的に関する制限がある場合は、本証明書における任意の場所に当該制限の内容を表示することができる。なお、当該制限の内容を概要で記載の上、当該制限を表示したウェブサイトのアドレス又は当該家畜体内受精卵の生産の事業を行う者の電話番号等を記載することもできる。

第 号			
体外受精卵生産に関する証明書			
交配した種畜	種畜証明書番号		等級
	名 前		
	家畜登録機関名及び登録番号		
	品 種		
卵巣を採取した雌畜（そのとを 含む。）	名 前		
	家畜登録機関名及び登録番号		
	品 種		
	(個体識別番号)		
	飼養者の氏名又は名称及び住所		
体外受精卵検査年月日			
家畜人工授精用精液証明書番号			
上記のとおり体外受精卵を生産したことを証明する。			
年 月 日			
獣医師（家畜人工授精師）			
登録番号（免許番号） (県) 第 号			
住 所			
氏 名 団			

(日本産業規格A5)

備考

- 1 牛については、「(個体識別番号)」の欄に個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。
- 2 この証明書を作成した獣医師又は家畜人工授精師は、この証明書に記載された家畜体外受精卵について、当該家畜体外受精卵の生産の事業を行う者の求めに応じ、使用する者の範囲又はその使用の目的に関する制限がある場合は、本証明書における任意の場所に当該制限の内容を表示することができる。なお、当該制限の内容を概要で記載の上、当該制限を表示したウェブサイトのアドレス又は当該家畜人工授精用精液の生産の事業を行う者の電話番号等を記載することもできる。

様式第十三号 [第二〇条]
その一 (家畜人工授精簿の表紙)

家 畜 人 工 授 精 簿

獣医師 (家畜人工授精師)
登録番号 (免許番号) (県)第 号

住 所
氏 名

その二 (家畜人工授精用精液の採取及び処理に関する事項)

種畜	種畜証明書番号		名 前		種類及び品種		生 年 月 日		飼養者の氏名又は名称及び住所		精 液 の 譲 渡 (※)				摘 要		
	採取年月日	採取時刻	採取量	色	臭 気	PH	精子数	活力及び生存率	き 型 率	き 積 液 及 び 積 倍 率	凍結後の活力及び生存率 ※	家畜人工授精用精液証明書番号	年月日	家畜人工授精用精液証明書番号		譲渡数量	譲渡先の氏名又は名称及び住所
											号から						
											号まで						
											号から						
											号まで						
											号から						
											号まで						

備考

- この帳簿には、種畜ごとに作成して家畜人工授精用精液の採取及び処理に関する事項を記載し、又は記録すること。
- 精液を採取し、封を施すことなく、その場で雌畜に注入し、又は体外授精を行ったときは、摘要欄に精液採取に関する証明書(乙)番号を記載し、又は記録すること。
- 獣医師又は家畜人工授精師が種畜の飼養者であつて、種付台帳(様式第4号その三)に記載し、又は記録した場合は、この帳簿の記載又は記録を要しない。
- ※印の欄には、精液を凍結処理しない場合は、記載又は記録を要しない。
- (※)印の欄には、精液を採取した獣医師又は家畜人工授精師が精液を譲渡する場合に限り記載し、又は記録する。
- 精液を混合処理した場合には、種畜の名前の欄には、その精液が混合されている種畜のうち少なくとも1頭について記載し、併せて合計頭数が分かるよう記載すること。

注入した雌畜	番 号				
	名 前				
	家畜登録機関名及び登録番号				
	種類及び品種				
	毛色及び特徴				
	生 年 月 日				
	飼養者の氏名又は名称及び住所				
注入精液	注 入 年 月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	種 畜 の 名 前				
	家畜人工授精用精液証明書番号				
授精証明書	発 行 年 月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	番 号				
子畜	性				
	生 年 月 日				
摘 要					

その三（家畜人工授精用精液の注入に関する事項）

備考

- めん羊、山羊及び豚については、子畜の性の欄に雄及び雌の別にその頭数を記載し、又は記録すること。
- 注入を受けた雌畜の飼養者から授精証明書の交付を要求される前においては、家畜人工授精用精液証明書を添付しておくこと。ただし、家畜人工授精簿を電磁的記録により作成する場合にあっては、家畜人工授精用精液証明書を必要ときに速やかに照合できるよう適切に保管しておくこと。
- 混合精液を使用した場合には、種畜の名前の欄には、使用した混合精液に添付されている家畜人工授精用精液証明書表の精液を採取した種畜の名前の欄に記載されている事項をそのまま記載すること。
- 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

その四（年次別の授精成績表）

年	次					
授	精	回	数			
授 精 回 数 別 実 頭 数	計					
	1	回				
	2	回				
	3	回				
	4	回以上				
受	胎	数				
不	受	胎	数			
不	明	数				
産 子 数	雄					
	雌					
	計					

備考

- 1 この表には、獣医師又は家畜人工授精師が年次別の授精成績をとりまとめて記載し、又は記録し、家畜人工授精簿その三とともに保存すること。
- 2 年次期間は、その年の1月1日から12月31日までとする。
- 3 授精回数とは、1発情期間内に2回以上授精した場合でも1回として計算すること。

その五 (家畜体内受精卵の採取及び処理に関する事項)

雌畜		名前	家畜登録機関名及び登録番号	品 種	(個体識別番号)	生年月日	飼養者の氏名又は名称及び住所										
交配した種畜																	
名前	種畜証明書番号	等級	家畜登録機関名及び登録番号	品 種	種付け又は精液注入年月日	種付証明書番号又は家畜人工授精用精液証明書番号	授精した獣医師(家畜人工授精師)の登録番号(免許番号)及び氏名	診断及び体内受精卵				体内受精卵の譲渡(※1)		概要			
								診断の年月日	採取年月日及び時刻	採取個数	正常受精個数	正常受精卵の形態	家畜体内受精卵証明書番号(※2)		凍結の有無	年月日	譲渡先の氏名又は名称及び住所
													号				
													号				
													号				
													号				
													号				

備考

- 1 獣医師が雌畜ごとに作成して体内受精卵の採取及び処理に関する事項を記載し、又は記録すること。
- 2 牛については、(個体識別番号)の欄に個体識別番号(牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項(平成15年法律第72号)の個体識別番号をいう。)を記載すること。
- 3 体内受精卵を採取し、封を施すことなくその場で雌の家畜に移植したときは、摘要欄にその体内受精卵採取に関する証明書番号を記載し、又は記録すること。
- 4 正常受精卵の形態の欄には、卵の分割状態等の違いが明らかになるようスケッチをし、顕微鏡写真(電磁的記録により作成されたものを含む。)を添付し、又はその卵の胚の品質コード及び発育ステージを記載すること。
- 5 (※1)印の欄には、体内受精卵を採取した獣医師が体内受精卵を譲渡する場合に限り記載し、又は記録する。
- 6 (※2)同一の家畜人工授精所内において、同一の家畜体内受精卵証明書番号を使用しないこと。

その六 (家畜体外受精卵の生産に関する事項)

卵巣を採取した雌畜(そのとたいから卵巣を採取した雌畜を含む。)		名前	家畜登録機関名及び登録番号	品 種	(個体識別番号)	生年月日	飼養者の氏名又は名称及び住所											
交配した種畜																		
名前	種畜証明書番号	等級	家畜登録機関名及び登録番号	品 種	家畜人工授精用精液証明書番号	診断の年月日	診断した獣医師の登録番号及び氏名	卵巣採取年月日	未受精卵採取個数	体外授精年月日	体外受精卵検査年月日及び時刻	正常受精卵個数	正常受精卵の形態	家畜体外受精卵証明書番号(※2)	凍結の有無	年月日	譲渡先の氏名又は名称及び住所	概要
														号				
														号				
														号				
														号				
														号				

備考

- 1 獣医師又は家畜人工授精師が雌畜(そのとたいから卵巣を採取した雌畜を含む。)ごとに作成して体外受精卵の生産に関する事項を記載し、又は記録すること。
- 2 牛であって、その個体識別番号(牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項(平成15年法律第72号)の個体識別番号をいう。)が分かる場合は、(個体識別番号)の欄に個体識別番号を記載すること。
- 3 体外受精卵を生産し、封を施すことなくその場で雌の家畜に移植したときは、摘要欄にその体外受精卵の生産に関する証明書番号を記載し、又は記録すること。
- 4 正常受精卵の形態の欄には、卵の分割状態等の違いが明らかになるようスケッチをし、顕微鏡写真(電磁的記録により作成されたものを含む。)を添付し、又はその卵の胚の品質コード及び発育ステージを記載すること。
- 5 (※1)印の欄には、体外受精卵を生産した獣医師又は家畜人工授精師が体外受精卵を譲渡する場合に限り記載し、又は記録する。
- 6 (※2)同一の家畜人工授精所内において、同一の家畜体外受精卵証明書番号を使用しないこと。

移植した雌畜	番 号					
	名 前					
	家畜登録機関名及び登録番号					
	品 種					
	毛 色 及 び 特 徴					
	生 年 月 日					
	飼養者の氏名又は名称及び住所					
移植した受精卵	移 植 年 月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
	名 前	種 畜				
		雌 畜				
	体 内	家畜体内受精卵証明書番号又は体内受精卵採取に関する証明書番号				
体 外	家畜体外受精卵証明書番号又は体外受精卵生産に関する証明書番号					
移植証明書	発 行 年 月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
	番 号					
子 畜	性					
	生 年 月 日					
摘 要						

その七（受精卵の移植に関する事項）

備考

- 1 子畜の欄には、子畜がいずれの受精卵によるものであるかが明らかになるように記載し、又は記録すること。
- 2 双子以上の分娩にあつては、その旨を摘要欄に記載し、又は記録すること。
- 3 移植を受けた雌畜の飼養者から体内受精卵移植証明書又は体外受精卵移植証明書の交付を要求される前においては、家畜体内受精卵証明書又は家畜体外受精卵証明書を添付しておくこと。ただし、家畜人工授精簿を電磁的記録により作成する場合にあつては、家畜体内受精卵証明書又は家畜体外受精卵証明書を必要となるときに速やかに照合できるよう適切に保管しておくこと。
- 4 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

その八（年次別の体内受精卵移植成績表）

年次										
移植回数										
移植体内受精卵数		1個	2個	3個以上	1個	2個	3個以上	1個	2個	3個以上
移植回数別延頭数	計									
	1回目									
	2回目									
	3回目									
	4回以上									
受胎数										
不受胎数										
不明数										
産子数	雄									
	雌									
	計									

備考

- 1 この表には、獣医師又は家畜人工授精師が年次別の移植成績を取りまとめて記載し、又は記録し、家畜人工授精簿その七とともに保存すること。
- 2 年次期間は、その年の1月1日から12月31日までとする。
- 3 移植回数は、1性周期に2回以上移植した場合でも1回として計算すること。

その九（年次別の体外受精卵移植成績表）

年 次										
移 植 回 数										
移植体外受精卵数		1個	2個	3個以上	1個	2個	3個以上	1個	2個	3個以上
移植回数別延頭数	計									
	1回目									
	2回目									
	3回目									
	4回以上									
受 胎 数										
不 受 胎 数										
不 明 数										
産 子 数	雄									
	雌									
	計									

備考

- 1 この表には、獣医師又は家畜人工授精師が年次別の移植成績を取りまとめて記載し、又は記録し、家畜人工授精簿その七とともに保存すること。
- 2 年次期間は、その年の1月1日から12月31日までとする。
- 3 移植回数は、1性周期に2回以上移植した場合でも1回として計算すること。

家畜人工授精師免許申請書

年 月 日

都道府県知事 殿

住 所

氏 名 印

家畜改良増殖法第16条第1項の規定により家畜人工授精師の免許を受けたいので、家畜改良増殖法施行規則第26条第1項各号に掲げる書類を添えて、下記により申請します。

記

- 1 本籍地都道府県名（国名）
- 2 住 所
- ふりがな
- 3 氏 名
（旧姓）
免許証への旧姓併記の希望の有無 有・無
（いずれかを丸で囲むこと。）
- 4 生年月日
- 5 家畜の種類及びその業務の別

（日本産業規格A4）

備考

- 1 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。
- 2 5の業務の別は次の区分により番号を記入すること。
 - 1 家畜人工授精の業務
 - 2 家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植の業務
 - 3 家畜人工授精、家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務

第 号

家畜人工授精師免許証

本籍地 都道府県名（国名）

住所地 都道府県名（国名）

氏 名

生 年 月 日

家畜の種類並びに家畜人工授精の業務、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植の業務又は家畜人工授精並びに家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務の別

家畜改良増殖法第16条第1項の規定により免許する。

年 月 日

都道府県知事 氏 名

印

（日本産業規格 A 7）

家畜人工授精師免許証書換交付（再交付）申請書

年 月 日

都道府県知事 殿

住 所

氏 名

印

家畜改良増殖法施行令第9条（第10条第1項）の規定により家畜人工授精師免許証の書換交付（再交付）を受けたいので、下記により申請します。

記

- 1 免許年月日及び免許番号
- 2 書換交付の場合にあつては、免許証の記載事項の変更の個所
- 3 申請の事由

（日本産業規格A4）

備考

氏名を自署する場合においては、押印を省略することができる。

様式第十七号〔第三一条〕

第 号 授 精 証 明 書			
種畜	家畜人工授精用 精液証明書番号		名 前
精液を注入した雌畜	名 前		
	家畜登録機関名 及び登録番号		
	種類及び品種		
	毛色及び特徴		
	生 年 月 日		
	飼養者の氏名又 は名称及び住所		
精液注入年月日			
上記のとおり家畜人工授精用精液を雌畜に注入したことを証明する。			
<p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p style="text-align: center;">獣医師（家畜人工授精師）</p> <p style="text-align: center;">登録番号（免許番号） （県）第 号</p> <p style="text-align: center;">住 所</p> <p style="text-align: center;">氏 名 印</p>			
（家畜人工授精用精液証明書又は精液採取に関する証明書（乙） をここにはり付けること。）			

備考

- 授精証明書を交付した場合は、その写しを書面又は電磁的記録により獣医師又は家畜人工授精師が保管しておくこと。
- 混合精液を使用した場合には、種畜の名前の欄には、使用した混合精液に添付されている家畜人工授精用精液証明書表の精液を採取した種畜の名前の欄に記載されている事項をそのまま記載すること。
- 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

第 号

体内受精卵移植証明書

体内受精卵を採取した雌畜	家畜体内受精卵証明書番号又は体内受精卵採取に関する証明書番号		名 前	
体内受精卵を移植した雌畜	名 前			
	家畜登録機関名及び登録番号			
	品 種			
	毛色及び特徴			
	生 年 月 日			
	飼養者の氏名又は名称及び住所			
体内受精卵移植年月日				

上記のとおり家畜体内受精卵を雌畜に移植したことを証明する。

年 月 日

獣医師（家畜人工授精師）

登録番号（免許番号）（県）第 号

住 所

氏 名

印

（家畜体内受精卵証明書又は体内受精卵採取に関する証明書をここにはり付けること。）

備考

- 1 体内受精卵移植証明書を交付した場合は、その写しを書面又は電磁的記録により獣医師又は家畜人工授精師が保管しておくこと。
- 2 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

第 号		体外受精卵移植証明書		
卵巣を採取した雌畜（そのとたいから卵巣を採取した雌畜を含む。）	家畜体外受精卵証明書番号又は体外受精卵生産に関する証明書番号		名前	
体外受精卵を移植した雌畜	名 前			
	家畜登録機関名及び登録番号			
	品 種			
	毛 色 及 び 特 徴			
	生 年 月 日			
	飼養者の氏名又は名称及び住所			
体外受精卵移植年月日				
上記のとおり家畜体外受精卵を雌畜に移植したことを証明する。				
年 月 日 獣医師（家畜人工授精師） 登録番号（免許番号） （県）第 号 住 所 氏 名 団				
（家畜体外受精卵証明書又は体外受精卵生産に関する証明書をここにはり付けること。）				

備考

- 1 体外受精卵移植証明書を交付した場合は、その写しを書面又は電磁的記録により獣医師又は家畜人工授精師が保管しておくこと。
- 2 牛については、毛色及び特徴の欄中、特徴に代えて個体識別番号（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第2条第1項（平成15年法律第72号）の個体識別番号をいう。）を記載すること。

家畜人工授精所開設許可申請書

年 月 日

都道府県知事 殿

家畜人工授精所の開設者の住所

家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称

印

家畜改良増殖法第24条の規定により家畜人工授精所の開設の許可を受けたいので、家畜改良増殖法施行規則第32条各号に掲げる書類を添えて、下記により申請します。

記

- 1 家畜人工授精所の名称及び所在地
- 2 家畜人工授精所を管理すべき獣医師又は家畜人工授精師の氏名及び住所
- 3 家畜の種類及びその業務の別
- 4 家畜改良増殖法第27条の種畜の種類、品種及び名前並びに他人がこれを飼養する場合にあってはその飼養者の住所及び氏名又は名称並びにその精液提供に関する契約等の概要
- 5 家畜人工授精所の構造、設備及び器具の概要
- 6 その他（①と②それぞれについて丸で囲むこと。）
 - ① 家畜人工授精所開設許可証への旧姓併記の希望の有無 有・無
 - ② 申請に係る家畜人工授精所の施設又は申請者に関する外国為替及び外国貿易法（昭和二十四年法律第二百二十八号）第二十七条第一項に規定する届出の要否
要・不要

（日本産業規格A4）

備考

- 1 氏名を自署する場合においては、押印を省略することができる。
- 2 3の業務の別は次の区分により番号を記入すること。
 - 1 家畜人工授精用精液の採取及び処理の業務
 - 2 家畜体内受精卵の採取及び処理の業務
 - 3 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌のとたいから採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
 - 4 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌から採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
 - 5 家畜人工授精用精液若しくは家畜受精卵又はこれらの保存
- 3 6②の届出を要する場合にあっては、当該届出をしたときは、速やかに、その内容を確認できる書類を家畜人工授精所の開設の許可を申請した都道府県知事に提出する。なお、「要」には既に届出した場合も含めるものとし、この場合においても、その内容を確認できる書類を家畜人工授精所の開設の許可を申請した都道府県知事に提出する。

家畜人工授精所開設許可に係る事項変更届出書

年 月 日

都道府県知事 殿

家畜人工授精所の開設者の住所
 家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称 印

家畜改良増殖法第25条の2第1項の規定に基づき、次のとおり変更の届出をします。

家畜人工授精所の管理番号			
家畜人工授精所の名称及び所在地			
変更に係る事項	変更前	変更後	変更年月日
家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称及び住所			
家畜人工授精所の名称及び所在地			
家畜人工授精所を管理すべき獣医師又は家畜人工授精師の氏名、住所及び登録番号又は免許番号			
家畜の種類及びその業務の別			
家畜人工授精所の構造、設備及び器具			
家畜人工授精所の開設者が法人である場合にあっては、その役員の氏名及び名称			

(日本産業規格A4)

備考

- 1 氏名を自署する場合においては、押印を省略することができる。
- 2 家畜の種類及びその業務の別の欄中、業務の別は次の区分により番号を記入すること。
 - 1 家畜人工授精用精液の採取及び処理の業務
 - 2 家畜体内受精卵の採取及び処理の業務
 - 3 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌のとたいから採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
 - 4 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌から採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
 - 5 家畜人工授精用精液若しくは家畜受精卵又はこれらの保存

家畜人工授精所 廃止
 届出書
 休止
 再開

年 月 日

都道府県知事 殿

家畜人工授精所の開設者の住所
 家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称 印

家畜改良増殖法第25条の2第2項の規定に基づき、家畜人工授精所の

廃止
 休止 の届出をします。
 再開

記

- 1 家畜人工授精所の管理番号
- 2 家畜人工授精所の名称及び所在地
- 3 廃止し、休止し、又は再開しようとする年月日
- 4 休止しようとする場合にあつては、休止の予定期間
- 5 廃止し、又は休止しようとする場合にあつては、家畜人工授精所で保存する家畜人工授精用精液及び家畜受精卵を処分する時期、場所及びその方法

(日本産業規格A4)

備考

氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

家畜人工授精所開設許可証書換交付（再交付）申請書

年 月 日

都道府県知事 殿

家畜人工授精所の開設者の住所

家畜人工授精所の開設者の氏名又は名称

印

家畜改良増殖法施行規則第38条（第39条）の規定により家畜人工授精所開設許可証の書換交付（再交付）を受けたいので、下記により申請します。

記

- 1 家畜人工授精所の管理番号
- 2 家畜人工授精所の名称及び所在地
- 3 書換交付の場合にあっては、許可証の記載事項の変更の箇所
- 4 申請の事由

（日本産業規格A4）

備考

氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

様式第二十四号〔第四四条〕
その一（家畜人工授精用精液についての譲渡等記録簿）

家畜人工授精所の管理番号：
家畜人工授精所の名称及び所在地：

譲渡・譲受等した年月日	種畜の名称	精液採取年月日	家畜人工授精用精液証明書番号	譲渡先又は譲受元の家畜人工授精所の開設許可の有無	譲渡先又は譲受元の家畜人工授精所等の管理番号又は氏名（名称）・住所	譲渡、譲受等の内容	備考欄
年 月 日							
年 月 日							
年 月 日							
年 月 日							
年 月 日							

備考

- 「譲渡・譲受等した年月日」の欄には、譲渡し、譲受し、廃棄し、又は亡失した年月日を記載するとともに、亡失した場合にあっては、その亡失の事実を知った日を記入し、亡失したものが見つかった場合は、当該亡失の記録の備考欄にその旨記載するなど、亡失したものが見つかったことが分かるように記載すること。
- 年月日を記載する場合には、西暦で記載すること。
- 「譲渡先又は譲受元の家畜人工授精所の開設許可の有無」の欄には、次の区分により番号を記入すること。ただし、2を記入する場合は、備考欄に具体的な相手方について記載すること。（例：自家利用の畜産農家、学術目的など）
 - 有
 - 無
- 「譲渡、譲受等の内容」の欄には、次の区分により番号を記入すること。
 - 譲渡
 - 譲受
 - 廃棄
 - 亡失
- 譲渡等記録簿は、この様式で規定されている事項が必要ときに速やかに照合できるよう記録すること。

その二（家畜受精卵についての譲渡等記録簿）

家畜人工授精所の管理番号：
家畜人工授精所の名称及び所在地：

譲渡・譲受等した年月日	家畜受精卵を生産した家畜人工授精所の管理番号	家畜体内受精卵証明書番号又は家畜体外受精卵証明書番号	譲渡先又は譲受元の家畜人工授精所の開設許可の有無	譲渡先又は譲受元の家畜人工授精所等の管理番号又は氏名（名称）・住所	譲渡、譲受等の内容	備考欄
年 月 日						
年 月 日						
年 月 日						
年 月 日						
年 月 日						

備考

- 「譲渡・譲受等した年月日」の欄には、譲渡し、譲受し、廃棄し、又は亡失した年月日を記載するとともに、亡失した場合にあっては、その亡失の事実を知った日を記入し、亡失したものが見つかった場合は、当該亡失の記録の備考欄にその旨記載するなど、亡失したものが見つかったことが分かるように記載すること。
- 年月日を記載する場合には、西暦で記載すること。
- 「譲渡先又は譲受元の家畜人工授精所の開設許可の有無」の欄には、次の区分により番号を記入すること。ただし、2を記入する場合は、備考欄に具体的な相手方を記載すること。（例：自家利用の畜産農家、学術目的など）
 - 有
 - 無
- 「譲渡、譲受等の内容」の欄には、次の区分により番号を記入すること。
 - 譲渡
 - 譲受
 - 廃棄
 - 亡失
- 譲渡等記録簿は、この様式で規定されている事項が必要ときに速やかに照合できるよう記録すること。
- 「家畜体内受精卵証明書番号又は家畜体外受精卵証明書番号」の欄において、当該記載に係る家畜受精卵を収めた容器に、家畜体内受精卵証明書番号又は家畜体外受精卵証明書番号ではなく、第42条第1項第2号ロ及びハが表示されている場合は、これらを同欄に記載すること（名前を記載する場合はカタカナで記載する。）。

登録規程承認申請書

年 月 日

農林水産大臣 殿

住所

氏名又は名称

印

家畜改良増殖法第32条の9第1項の規定により登録規程の承認を受けたいので、登録規程及び家畜登録事業の事業計画書を添えて申請します。

(日本産業規格A4)

備考

氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

登録規程変更承認申請書		
		年 月 日
農林水産大臣	殿	
住所		
氏名又は名称		印
<p>家畜改良増殖法第32条の9第3項の規定により登録規程の変更の承認を受けたいので、下記により申請します。</p>		
記		
1	変更の個所	
2	変更の理由	

(日本産業規格 A 4)

備考

氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

家畜登録事業廃止届出書		
		年 月 日
農林水産大臣	殿	
住所		
氏名又は名称		印
家畜登録事業を廃止したいので、下記により届け出ます。		
記		
1	廃止の予定期日	
2	廃止の理由	
3	廃止後の家畜登録簿の処置	

(日本産業規格 A 4)

備考

氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

家畜人工授精所における特定家畜人工授精用精液等の業務に関する報告書

年 月 日提出

都道府県知事 殿

家畜改良増殖法施行規則第49条に基づき、 年 月 1 日から12月31日までの家畜人工授精所の運営の状況を次のとおり報告します。

- 1 家畜人工授精所の管理番号；
- 2 家畜人工授精所の名称及び所在地；
- 3 家畜人工授精所の業務の別；
- 4 報告対象物；
- 5 前年12月31日時点の保存数量；
- 6 家畜人工授精所の運営の状況

(単位：本)	年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
生産数量													
譲受数量													
譲渡数量													
利用数量													
廃棄又は 亡失した数量													
月末時点の 保存数量													
備考													

(日本産業規格 A 4)

備考

- 1 年は西暦で記載すること。
- 2 3の業務の別は次の区分により番号を記入すること。
- 1 家畜人工授精用精液の採取及び処理の業務
- 2 家畜体内受精卵の採取及び処理の業務
- 3 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌のとたいから採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
- 4 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌から採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
- 5 家畜人工授精用精液若しくは家畜受精卵又はこれらの保存
- 3 4の報告対象物は次の区分により番号を記入すること。
- 1 家畜人工授精用精液
- 2 家畜受精卵
- 4 生産数量及び利用数量には、容器に収められ、封を施した家畜人工授精用精液又は家畜受精卵の本数を記入すること。
- 5 譲受数量には、保存の委託を受けた特定家畜人工授精用精液等の搬入を含む。
- 6 譲渡数量には、保存の委託を受けた特定家畜人工授精用精液等の搬出を含む。
- 7 備考の欄には、亡失した特定家畜人工授精用精液等を発見したときなど各項目に該当しないものについてその事由と数量を記載すること（例：亡失した精液の発見+2）。

家畜人工授精所における家畜人工授精用精液又は家畜受精卵
(特定家畜人工授精用精液等であるものを除く。)の業務に関する報告書

年 月 日提出

都道府県知事 殿

家畜改良増殖法施行規則第49条に基づき、 年 月 1 日から12月31日までの家畜人工授精所の運営の状況を次のとおり報告します。

1	家畜人工授精所の管理番号	
2	家畜人工授精所の名称及び所在地	
3	家畜の種類及びその業務の別	
4	家畜人工授精用精液を譲渡した件数	
5	家畜人工授精用精液を譲受した件数	
6	家畜受精卵を譲渡した件数	
7	家畜受精卵を譲受した件数	

(日本産業規格 A 4)

備考

- 1 年は西暦で記載すること。
- 2 3の家畜の種類は次の区分により番号を記入し、家畜の種類ごとに当該様式に基づく報告を行うこと。
- 1 牛
- 2 豚
- 3 馬
- 4 山羊
- 5 めん羊
- 3 3の業務の別は次の区分により番号を記入すること。
- 1 家畜人工授精用精液の採取及び処理の業務
- 2 家畜体内受精卵の採取及び処理の業務
- 3 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌のとたいから採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
- 4 家畜体外受精卵の生産に関する業務（家畜の雌から採取した卵巣から未受精卵を採取し、及び処理し、体外受精を行い、並びにこれにより生じた受精卵を処理する場合に限る。）
- 5 家畜人工授精用精液若しくは家畜受精卵又はこれらの保存
- 4 4及び5は家畜の種類ごとに記載し、6及び7は牛に限って記載すること。

(表)

<p>家畜改良増殖法第三十五条第一項の規定により 立入検査等をする職員の身分証明書</p>	<p>家畜人工授精簿、譲渡等記録簿その他必要な書類（これらの作成又は保存に代えて電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）の作成又は保存がされている場合における当該電磁的記録を含む。次条第一項において同じ。）を検査させ、又は検査に必要な最小限度の分量に限り種畜の精液、家畜卵巣、家畜未受精卵若しくは家畜受精卵を収去させることができる。</p> <p>2 種畜検査委員又は地方種畜検査委員は、前項の規定による立入り、質問、検査又は収去（以下「立入検査等」という。）をする場合には、その身分を示す証明書を携帯し、かつ、関係者の要求があるときは、これを提示しなければならない。</p> <p>3 第一項の規定による立入検査等は、犯罪捜査のため認められたものと解釈してはならない。</p> <p>第三十九条 次の各号のいずれかに該当する場合には、当該違反行為をした者は、五十万円以下の罰金に処する。</p> <p>一〜九 (略)</p> <p>十 第三十五条第一項又は第三十五条の二第一項の規定による検査を拒み、妨げ、又は忌避したとき。</p>
---	---

(裏)

<p>家畜改良増殖法（抄） （種畜検査委員及び地方種畜検査委員）</p> <p>第三十三条 家畜の改良増殖に関する事務を処理させるため、農林水産省に種畜検査委員を置く。</p> <p>2 種畜検査委員は、畜産に関し知識経験を有する農林水産省の職員のうちから農林水産大臣が任命する。</p> <p>3 家畜の改良増殖に関する事務を処理させるため、都道府県に地方種畜検査委員を置くことができる。</p> <p>4 地方種畜検査委員は、畜産に関し知識経験を有する都道府県の職員のうちから都道府県知事が任命する。</p> <p>(立入検査等)</p> <p>第三十五条 農林水産大臣又は都道府県知事は、家畜の改良増殖を促進するため必要があると認めるときは、種畜検査委員又は地方種畜検査委員に畜舎、家畜人工授精所その他家畜人工授精若しくは家畜受精卵移植を行う場所に立ち入らせ、関係者に質問させ、家畜、施設の構造、設備、器具その他の物件若しくは種付台帳、</p>	<p>第 号 年 月 日 交付</p> <p>官 職</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 農林水産大臣印、都道府県知事印 </div> <p>生 氏</p> <p>年 月 日 名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 写真 </div>
---	---

〔用紙の大きさは、縦90ミリメートル、横120ミリメートルとし、中央点線の所から二つ折りとすること。〕

様式第三十一号 (第五一条)

(表)

<p>(センターによる立入検査等)</p> <p>第三十五条の二 農林水産大臣は、前条第一項の場合において必要があると認めるときは、センターに、畜舎、家畜人工授精所その他家畜人工授精若しくは家畜受精卵移植を行う場所に立ち入らせ、関係者に質問させ、家畜若しくは種付台帳、家畜人工授精簿、譲渡等記録簿その他必要な書類を検査させ、又は検査に必要な最小限度の分量に限り種畜の精液若しくは家畜受精卵を収去させることができる。</p> <p>2 農林水産大臣は、前項の規定によりセンターに立入検査等を行わせる場合には、センターに対し、立入検査等を行う期日、場所その他必要な事項を指示してこれを実施すべきことを指示するものとする。</p> <p>3・4 (略)</p> <p>5 第一項の規定による立入検査等については、前条第二項及び第三項の規定を準用する。</p> <p>第三十九条 次の各号のいずれかに該当する場合には、当該違反行為をした者は、五十万円以下の罰金に処する。</p> <p>一〜九 (略)</p> <p>十 第三十五条第一項又は第三十五条の二第一項の規定による検査を拒み、妨げ、又は忌避したとき。</p> <p>家畜改良増殖法第三十五条の二第一項の規定により立入検査をする職員の身分証明書</p>	<p>第三十五条 農林水産大臣又は都道府県知事は、家畜の改良増殖を促進するため必要があると認めるときは、種畜検査委員又は地方種畜検査委員に畜舎、家畜人工授精所その他家畜人工授精若しくは家畜受精卵移植を行う場所に立ち入らせ、関係者に質問させ、家畜、施設の構造、設備、器具その他の物件若しくは種付台帳、家畜人工授精簿、譲渡等記録簿その他必要な書類（これらの作成又は保存に代えて電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の他人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）の作成又は保存がされている場合における当該電磁的記録を含む。次条第一項において同じ。）を検査させ、又は検査に必要な最小限度の分量に限り種畜の精液、家畜卵巣、家畜未受精卵若しくは家畜受精卵を収去させることができる。</p> <p>2 種畜検査委員又は地方種畜検査委員は、前項の規定による立入り、質問、検査又は収去（以下「立入検査等」という。）をする場合には、その身分を示す証明書を携帯し、かつ、関係者の要求があるときは、これを提示しなければならない。</p> <p>3 第一項の規定による立入検査等は、犯罪捜査のため認められたものと解釈してはならない。</p>
--	---

(裏)

<p>家畜改良増殖法 (抄)</p> <p>(立入検査等)</p> <p>第三十五条 農林水産大臣又は都道府県知事は、家畜の改良増殖を促進するため必要があると認めるときは、種畜検査委員又は地方種畜検査委員に畜舎、家畜人工授精所その他家畜人工授精若しくは家畜受精卵移植を行う場所に立ち入らせ、関係者に質問させ、家畜、施設の構造、設備、器具その他の物件若しくは種付台帳、家畜人工授精簿、譲渡等記録簿その他必要な書類（これらの作成又は保存に代えて電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の他人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）の作成又は保存がされている場合における当該電磁的記録を含む。次条第一項において同じ。）を検査させ、又は検査に必要な最小限度の分量に限り種畜の精液、家畜卵巣、家畜未受精卵若しくは家畜受精卵を収去させることができる。</p> <p>2 種畜検査委員又は地方種畜検査委員は、前項の規定による立入り、質問、検査又は収去（以下「立入検査等」という。）をする場合には、その身分を示す証明書を携帯し、かつ、関係者の要求があるときは、これを提示しなければならない。</p> <p>3 第一項の規定による立入検査等は、犯罪捜査のため認められたものと解釈してはならない。</p>	<p>第 号 年 月 日交付</p> <p>職 名 独立行政法人家畜改良センター センターの理事長印 氏 名 生年月日</p> <p>写 真</p>
---	--

〔用紙の大きさは、縦90ミリメートル、横120ミリメートルとし、中央点線の所から二つ折りとすること。〕